はじめに

「いくつかの句法をお経のように唱えて覚えたケド、でも、それしかわからない」という人、たくさんいると思います。それどころか、現時点で漢文の知識なんてほぼゼロだ…という人もいることでしょう。

そんな人でも大丈夫！

本講座は漢文の基本事項から講義しますので、「今から初めて漢文を勉強する」という人でも大歓迎！です。

この講座を受講すれば、最後には入試漢文の問題が自力で解けるようになっているはず。たった11講なのに、です。

なぜなら**漢文は、入試科目の中でおそらく一番少ない知識で高得点が取れる科目**だからです。ただし、古文法の知識がないと少しやっかい（漢文は中国の古典で、その文献が伝わった昔、日本語に訳して読みやすくする訓読方法を確立したからです）なので、まずは古文法を仕上げてくださいネ（入試科目で、「古文はいるけど漢文は不要」という人はいるでしょうが、その逆はほとんどの人が該当しないはずです。だから「古文そのもの」の為にはもちろんのこと、「漢文」の為にも古文法の知識は必要ですので、まずは古文文法講座の講義動画を参考にして古文法をマスターしてください）。

漢文は確かに一見、漢字だらけで変な記号がくっついていて、意味不明に思うかもしれません。

あるいは、「漢文は使役や反語などの句法が大事」だという言葉は、なんとなく聞いたことがある人も少なくないはずです。だから「漢文なんてとりあえず句法やればいいんでしょ？」なんて思っている人もやっぱりいますよね？

でも「句法だけひとまず勉強したけど、なかなか問題が解けない…」という悩みを抱えている受験生もたくさんいるのが現実…。

――なぜでしょう？

実は**漢文で大事なことは、句法だけではありません**。もちろん句法も大事です。でも、それだけじゃないんです！

一番基本となるところ、**「文構造」**や**「『置き字』の知っておくべき知識」**をきちんと理解できていないと、漢文は正しく読めません。逆に言うと、これらを理解しておくだけで、簡単に解けてしまう問題だってあるくらいです。なのに「句法」ばかりが重要視され、これらをきちんと理解していないことが原因です。

本講座では、第1講で、まずそれらの基本知識をきっちり学んだ上で、第2講~第7講で入試に必要な「重要句法」に取り組みます。ほぼ全ての例文は、入試問題の文章から抜粋したものです。基本を学びつつ、例文で入試問題の文章にも触れて、実践問題を取り組む準備も自然としていることになります！

第7講には、覚えておくべき単語も掲載していますので、何度も見て覚えてくださいネ。少ないとは言え、やはり最低限覚えるべきことはあるので、テキストに載っていることはおさえてください（もちろんコツは講義中にお伝えします）。第8講で漢詩を扱った後は、実際の過去問にチャレンジです。

基本からしっかり理解して、実践練習で問題が解けるように、全11講一緒に頑張りましょう！

高１・高２・高３　漢文
予復習・授業の受け方について

第１～８講までは予習不要です。
テキスト中に**〈例題〉**や**「問題」**がありますが、講義中に問題を指定しますので、該当問題を適宜解いてください。
その際、動画は一時停止を押して問題を解き、解き終えたらまた再生を押して、解説を聞いていく、というスタイルで。
なお解答欄はありませんので、選択式の問題は番号などに直接印をつけ、記述問題はスペースに書いてください。
ちなみに、**〈例題〉は基本オリジナル問題**（若干古い入試問題も入っています）、**「問題」は実際の入試問題**です。
「既に句法が理解できている人」は、第２～７講の句法の部分は、ざっと確認程度で気楽に取り組んでください。**間違えた箇所、忘れていた部分、知らなかったことなどに重点を置いて**取り組んでください。
「全く句法が理解できていない人」は、一気に仕上げようとしなくてもよいので、**確実に覚えてから次に進んでください**。ただし、間が空きすぎると忘れてしまうので、なるべく期間を決めて（句法を一～二カ月以内に全部覚える、など）、その間に仕上げてくださいネ。

第９～11講は「実践練習」なので、**動画を見る前に先に問題を解いてください**（つまり、予習してネ）。大問で二、三題ありますので、全部解いてから動画をまとめて見るもよし、各大問ずつ解いて該当チャプターを分けて見るもよし、自分に合うスタイルで実施してください。どちらにしろ、予習が終わったら、なるべく時間をあけずに該当箇所の動画を見ることは守ってください。自分がその解答にした根拠を覚えている間に見ることが大切です。

講義を見終えたら、どの講も復習は必ずしてください。特に、第１講が理解できていなければ、その先も全く分からないはずなので、きちんと理解してから次に進みましょう。句法は言うまでもなく大切ですので、動画を見て理解ができれば何度もテキストを見直して、定着させてください。復習が終わったら、後ろにある**「確認問題」**を解きましょう。この「確認問題」を、記憶を定着させるツールとして、何回でも使用してください！

目次

高1・高2・高3　漢文

第1講　基本事項の確認 …… p.6
第2講　再読文字・使役形 …… p.30
第3講　受身形・否定形 …… p.46
第4講　疑問形・反語形 …… p.68
第5講　詠嘆形・比較形・仮定形・限定形・累加形 …… p.86
第6講　抑揚形・願望形 …… p.104
第7講　その他の句法／漢字の読み・意味／漢詩 …… p.112
第8講　漢文読解法 …… p.136
第9講　実践練習⑴ …… p.148
第10講　実践練習⑵ …… p.158
第11講　実践練習⑶ …… p.170

第1講　基本事項の確認

PART1　基礎知識

一　基礎知識

●白文…漢字だけの文

有献不死之薬於荊王者。

●送り仮名…漢字の右下にカタカナでつける（漢字の横の平仮名は振り仮名）。

＊日本の古典文法に従い**歴史的仮名遣い**で書く。

有リ献ズル不死之薬ヲ於荊（けい）王ニ者。

●返り点…漢字の左下につける「日本語の語順で読むため」の記号。

有㆘献㆓不死之薬於荊王㆒者㆖。

●書き下し文…漢字・仮名まじりの日本文に書き改めたもの。

不死の薬を荊王に献ずる者有り。

注　荊…楚（国名）の異名。

i 「書き下し文」

＊ 平仮名は、日本の古典文法に従い歴史的仮名遣いで書く。

① 返り点（ii参照）に従って順番に読む。

② **置き字**（［三］参照）は**書かない**。

③ 漢字は漢字のままだが、**助詞・助動詞として読む漢字は平仮名**にする。

④ 漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。

⑤ **再読文字**（第二講で実施）は**最初の読みは漢字**で、**二度目の読みは平仮名**で書く。

（例）

有リ下 献ズル二 不 死 **之** 薬ヲ 於 荊（けい） 王ニ一 者上。

→

不死**の**薬を荊王に献ずる者有り。

ii 「返り点」

（＊　iiの例文中もiの例文同様、**助詞・助動詞**の漢字は**太字**、置き字には影をつけています）

① レ点＝すぐ下の一字からすぐ上の一字に返る。

②レ①

（例）酤(ウル)レ酒(ヲ)。　〔酒を酤る。〕

② 一・二点＝二字以上返る。

③二①②一　／　④レ③二①②一　／　⑤三①④二②③一

（例）我与(ためニ)レ汝(なんぢノ)結(バン)二今身(ノ)縁(ヲ)一。　〔我汝の与に今身の縁を結ばん。〕

③ 上・中・下点＝一・二点をはさんで上に返る。

⑤下③二①②一④上　／　⑥レ⑤下③二①②一④上　／　⑦下①⑥中④二②③一⑤上

（例）僕時(ニ)雖(モ)下稍(やや)知(リ)二愛敬(スルヲ)一、**不**(ルト)中従(ヒテ)レ衆(ニ)非笑(セ)上、…

〔僕時に稍愛敬するを知り、衆に従ひて非笑せ**ざ**ると雖も、…〕

④　甲・乙点＝上・中・下点をはさんで上に返る。（甲乙丙丁…）

⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑧レ⑦乙⑤下③二①②一④上⑥甲　／　⑨丙①⑧乙⑥下④二②③一⑤上⑦甲

＊　上中下点を使うべき場合も、四ヶ所以上返り点をつけなければならないときは「甲乙丙丁」を使用する。

(例)　⑨丁①⑧丙②⑦乙⑤二③④一⑥甲

⑤　組み合わせ点＝一レ、上レ、甲レのみ。　＊　一・上・甲のすぐ上にレ点をつけることはできない。

①⑤二②④一レ③　／　⑥下③二①②一⑤上レ④　／　⑧乙⑤下③二①②一④上⑦甲レ⑥

(例)　明ニスル二人**之**欺クヲ一レ王ヲ**也**。〔人**の**王を欺くを明にする**なり**。〕

⑥　二字の熟語へ返る＝―（ハイフン）でつなげる。

③二-④①②一　／　⑤三③二-④①②一

(例)　往二-来ス於市し井せいノ間ニ一。〔市井の間に往来す。〕

〈例題一〉 次の○の中に、返り点にしたがって、読む順番を数字で書きなさい。

○乙○下○二○○レ○○中○○上○甲。

〈例題二〉 次の数字の順番に読めるように返り点をつけよ。

⑦⑥①②⑤③④

問一 次の文は「臣敢て死を以て戯れと為さず。」と読む。これに従って返り点をつけよ。

臣不敢以死為戯。

問二 次の文は「遂に以て詩を得たる人に嫁せしむ。」と読む。この読み方に従って、返り点をつけよ。

遂以嫁得詩人。

問三 次の文は「勤めに服し力を致し、以て厚徳に報いんと欲す。」と読む。これに従って、漢文に返り点をつけよ。

欲服勤致力、以報厚徳。

問四　次の文を「寛簡、擾(みだ)さざるを以て意と為す。」と読めるように返り点と送り仮名とを施しなさい。

以　寛　簡　不　擾　為　意　。

注　寛簡…寛大で簡便なこと。

〈例題三〉　「移二榻於戸外一而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

① 戸外より榻を移して寝ねたり
② 榻を戸外に移して寝ねたり
③ 戸外に寝ねて榻を移したり
④ 榻を移して戸外に於いて寝ねたり
⑤ 榻は戸外にて移して寝ねたり

第1講 PART1 確認問題

① 書き下し文にするときのルールとして正しくないものを、次の中から一つ選べ。

ア　返り点に従って読む。
イ　置き字は書かない。
ウ　助詞・助動詞として読む漢字は平仮名で書く。
エ　漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。
オ　再読文字は最初の読みは平仮名で、二度目の読みは漢字で書く。

② 「与(と)㆓朋友㆒交(ハリテ)而不(ざル)㆑信(ナラ)乎(か)。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。（なお、「而」は置き字である。）

ア　朋友与交はりて而信ならざるか。
イ　朋友と交はりて信ならざるか。
ウ　朋友と交わりて信ならざるか。
エ　朋友と交はりて信なら不るか。

③　〇の中に返り点に従って読む順番を数字で書き入れたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「〇乙〇下―〇〇〇中〇〇二〇〇一〇上〇甲。」

ア　⑪乙⑨下―①②⑧中③⑥二④⑤一⑦上⑩甲。
イ　⑪乙⑧下―⑨①⑦中②⑤二③④一⑥上⑩甲。
ウ　⑪乙⑦下―⑧①⑥中②⑩二③⑨一④上⑤甲。
エ　⑧乙⑤下―⑥⑨④中⑩②二⑪①一③上⑦甲。

④　数字の順番に読めるように返り点をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「⑦⑥④③①②⑤⑧。」

ア　⑦三⑥レ④二③レ①②⑤一⑧。
イ　⑦下⑥中④③二①②一⑤上⑧。
ウ　⑦乙⑥レ④下③二①②一⑤上⑧甲。
エ　⑦レ⑥下④レ③二①②一⑤上⑧。

⑤　左の文は、「君子は言に訥（とつ）にして、行に敏（びん）ならんことを欲す。」と読む。この読み方に従って返り点をつけたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。（なお、「於」「而」は置き字である。）

「君子欲訥於言、而敏於行。」

ア　君子欲二訥レ於レ言、而敏於レ行一。

イ　君子欲下訥於レ言、而敏上於レ行。

ウ　君子欲下訥二於言一、而敏中於行上。

エ　君子欲三訥於レ言、而敏二於行一。

〈Memo〉

PART2　基本構造（＝語順）

二　基本構造（＝「語順」）

① S（主語）＋V（述語）
（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

② S＋V＋O〔目的語＝～**ヲ**〕

③ S＋V＋於・于・乎＋C〔補語＝～**ニ・ト・ヨリ（モ）**〕

④ S＋V＋O＋於・于・乎＋C
（＊名[1] 動[4]二 名[2]ヲ 於・于・乎 名[3]一）

⑤ S＋V＋C＋O
（＊名[1] 動[4]二 名[2]ニ 名[3]ヲ一）

⑥ 修飾＋被修飾

＊ ①・⑥は日本語と語順が同じだが、②～⑤は異なる。そこで漢文を日本語の順番で読むために「返り点」をつける。

★ ①～⑤において、Sが省略される時もある。**→Vにあたる部分を探す。**

①　S（主語）＋V（述語）　（＊V部分は形容詞・形容動詞・名詞も置かれる）

（例）伍(ご)員(うん)亡(にグ)。（伍員は亡命した。）

汝(ノ)狗(いぬ)猛(たけシ)。（お前の犬は気性が激しい。）

彼良医也(なり)。（彼は腕の良い医者である。）

②　S＋V＋O〔目的語＝～**ヲ**〕

（例）病児服薬。（　　　　　　　　　）

＊「～ヲ」の送り仮名を振って文意が通じなければ、OではなくC。

③　S＋V＋於・于・乎＋C〔補語＝～**ニ・ト・ヨリ（モ）**〕

（例）我請於帝。（　　　　　　　　　）

＊V＝「言う」の意味になる時は、「S＋V＋C」となることが多い。

（例）公語(リテ)レ人曰(ク)…　（公が人に語って言うことには…）

＊文意上「～ヲ」になる時は、CではなくO。強意の働き。

（例）伍(ご)員(うん)過(よぎル)二於荊(ヲ)一。（伍員は荊の国を通り過ぎる。）　注　荊…楚（国名）の異名。

④ S＋V＋O＋**於・于・乎**＋C

（＊ 名[1] 動[4]二 名[2ヲ] **於・于・乎** 名[3二]一）

（例） 献不死之薬於荊王。（　　　　　　　　）

⑤ S＋V＋C＋O

（＊ 名[1] 動[4]二 名[2二] 名[3ヲ]一）

（例） 子路与人一（いつ）箪（たん）食（ノし）。（　　　　　　　　）

注　一箪食…竹で作った器に盛った飯。

ここで再び**〈例題三〉**（左記）を見てみよう（選択肢①・③・④はカット）。

〈例題三〉「移二榻於戸外一而寝」を返り点に従って読み下すとどうなるか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

＊榻…長椅子兼用の細長い寝台。

② 榻を戸外に移して寝ねたり

⑤ 榻は戸外にて移して寝ねたり

S＋｛副詞／助動詞／再読文字／前置詞を含む句｝＋V＋O＋於・于・乎＋C＋語気詞

※前置詞を含む句

以テ二〜ヲ一 ／ 与と二〜一 ／ 為ニ二〜一 ／ 自より二〜一 など

※語気詞＝文末で強意・疑問・反語・詠嘆・断定などの気分を表す言葉

（例）臣 以二忠 信一得二罪 於 上一者 也なり。　（私は忠信でありながら「　　　」ものである。）

書き下し文 ←

〔　　　〕

注　上…上位の人。

第1講　PART2　確認問題

① 文の構造が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　我聞道。　イ　汝得人。
ウ　吾習之。　エ　子告之。

② 文の構造が他と異なるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　士志二於道一　イ　吾読二家書一
ウ　子畏二於匡一　エ　我請二乎母一

③「天生徳於予。」の返り点のつけ方とその読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　天生二徳於予一。　天徳に於いて予を生む。
イ　天生レ徳二於予一。　天予に徳を生ぜり。
ウ　天生二徳於予一。　天徳を予に生ぜり。
エ　天生徳二於予一。　天生きる予の徳に。

④　「君子与宰相書。」を書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　君子宰相に書を与ふ。
イ　君子書に宰相を与ふ。
ウ　君子与ふ宰相は書けり。
エ　君子宰相と書を与ふ。

⑤　「王巾（わうきん）笥（し）シテ　而蔵（をさ）二之廟（べう）堂（だう）之上一。」の傍線部を返り点に従って読み下したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

※巾笥…布で包んで箱の中に入れる。
　蔵…しまう。

ア　之と廟堂の上を蔵む。
イ　之が廟堂の上と蔵む。
ウ　之により廟堂の上こそ蔵む。
エ　之を廟堂の上に蔵む。

PART3　置き字

三 **置き字**…意味はあるがそれ自体は読まない文字。書き下し文では書かない。

① **於・于・乎**＝前置詞の働き。
「時・場所・比較・受身・目的・起点・対象」などを表し、動詞・形容詞の後に置く。**直後の送り仮名は**
「**ヲ・ニ・ト・ヨリ（モ）**」。

② **而**＝接続の働き。「順接・逆接」を表す。

文中…**読まない**。**直前に読む字に送り仮名**を送る。

「順接」＝テ・シテ・ニシテ・テ・デ　　（例）召シテ二蘧（きょ）伯（はく）玉（ぎょく）ヲ一而貴ブレ之ヲ。

「逆接」＝モ・ドモ・ニ　　（例）蘧伯玉賢ナルモ而不レ用ヒラレ。

> **文頭**…**読む**（＝置き字ではない）。
> 「順接」＝しかうシテ・しかシテ
> 「逆接」＝しかルニ・しかルヲ・しかモ・しかレドモ

③ **矣・焉**＝**強意**の働き。**文末**にある。語気詞。
（例）我失ヘリ矣。

④ 兮＝整調の働き。（詩の中でしか使わない）
（例）今遂ニ逝ケリ兮。

問五　「語夫人其実焉」の返り点のつけ方とその読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

①　語㆓夫人其実㆒焉　　夫人と其の実を語る
②　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語ること其れ実ならんや
③　語㆓夫人其実㆒焉　　夫人に其の実を語る
④　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語りて其れ実ならしむ
⑤　語㆓夫人㆒其実焉　　夫人に語れば其れ実なり

問六　次の文章に、返り点をつけよ。

吾已作薬酒待之矣。

注　薬酒…毒薬を入れた酒。
之（これ）…ここでは「夫」のこと。

四

返読文字…語順に関係なく**下から返ってくる**ことが決まっている文字。（左記のA・Bなど）

A「助動詞」

…助動詞は文末に置く断定「也」を除いて、用言（主に動詞）の上に置かれ、その用言から返って読む。

① **不**・弗＝ず（打消）　② **使**・令・遣・教・俾＝しム（使役）
③ 為＝たり（断定）　④ **可**＝ベシ（可能・当然）
⑤ **見**・被・為・所＝る・らル（受身）　⑥ **如**・若＝ごとシ（比況）

＊「ム・タリ（完了）・リ」などは漢字がなく、送り仮名として示す。

B「それ以外」

① 有（あり）　② 無（なシ）　③ 勿・毋・莫（なカレ）
④ 多（おほシ）　⑤ 少（すくなシ）　⑥ 易（やすシ）
⑦ 難（かたシ）　⑧ 毎（ごとニ）　⑨ 所（ところ）
⑩ 為（ノためニ）　⑪ 所以（ゆゑん）　⑫ 不レ能（あたハず）
⑬ 雖（トいへどモ）　⑭ 自・由・従（より）
⑮ 与（と）　⑯ 与（より（ハ））

問七　次の文は「佃人をして麦を献ぜしむ。」と読む。これに従って、返り点と送り仮名を書きなさい。

使佃人献麦。

注　佃人…公田の耕作を司る役人。

問八　次の文に訓点（送り仮名と返り点）を施し、記せ。

雪珠如豆打茅茨。

注　雪珠（せつじゅ）…あられ、みぞれ。
茅茨（ぼうし）…かやぶきの屋根。

五　「也」の読み方

文末＝上に**疑問・反語**を表す副詞があるかないかを確認。

①　**疑問・反語**～也。＝「**や**」「**か**」と読んで「**疑問・反語**」の意味を表す。

②　~~疑問・反語~~～也。＝「**なり**」と読んで「**断定**」の意味を表す。

文中＝「**や**」と読んで「提示・強調」の意味を表す。

③　～也、～　（読まないときもある）

④　～也～　（ほとんど読まない）

〈例題四〉 次の傍線部ａ・ｂの読みを、それぞれ記せ。

蓋(けだシ)是(この)国ａ也、地険(ニシテ)而民多(ク)レ知、其(ノ)主(ハ)俗主ｂ也。

ａ＝

ｂ＝

問九 「始貨二爾魚一約二三十銭一也。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　始め爾(なんぢ)に魚を貨(う)るも三十銭に約せんや。
イ　始め爾の魚を貨るに三十銭を約せんや。
ウ　始め爾に魚を貨るに三十銭を約するなり。
エ　始め爾に魚を貨らしむるに三十銭を約するか。
オ　始め爾の魚を貨らしむるも三十銭に約するなり。

第1講　PART3　確認問題

① 他と異なる働きを持つ置き字として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 於　イ 矣　ウ 于　エ 乎

② 「虞<u>兮</u>虞<u>兮</u>奈レ若何」の傍線部の置き字の働きとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 強意　イ 接続　ウ 整調　エ 前置詞

③ 「吾十有五而志于学。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 吾十有五よりも学にして志す。

イ 吾十有五であれども学において志す。

ウ 吾十有五而して学を志す。

エ 吾十有五にして学に志す。

④「而後従之。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　後にして之に従ふ。
イ　而して後に之に従ふ。
ウ　而して後に従ふや。
エ　後れども之に従ふ。

⑤「敏㆓於事㆒而慎㆓於言㆒、…」を返り点に従って書き下したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　事に敏にして言に慎み、…
イ　事に於いて敏く言ふに於いて慎み、…
ウ　事よりも敏く而して言よりも慎み、…
エ　事に敏なれば言に慎にして、…

第２講　再読文字・使役形

PART１　再読文字

一

再読文字…最初は返り点を無視して副詞として読み、二度目は返り点に従って助動詞（動詞）として読む。

① **未**＝未(いま)ダ～ず／（まだ～ない）

（例）未レ還(かへラ)。〔未だ還らず。〕（まだ戻ってこない。）

② **将・(且)**＝将(まさ)・(且(まさ))ニ～ントす／（～しようとする・～しそうだ）

（例）将ニレ食(セント)。〔将に食せんとす。〕（今にも食べようとする。）

＊「将」が再読文字ではないとき＝「はタ」（＝あるいは）や「もっテ」と読む。

③ **当**＝当(まさ)ニ～ベシ／（当然～すべきだ・～しよう）

（例）当レ帰(とつガシム)レ汝。〔当に汝を帰がしむべし。〕（当然お前を嫁がせよう。）

④ **応**＝応(まさ)ニ～ベシ／（きっと～しよう・に違いない）

（例）応レ知レ之。〔応に之を知るべし。〕（きっとこれを知っているに違いない。）

⑤

宜＝宜(よろ)シク～ベシ／（～するのがよい）

（例）宜レ従二汝ノ所一レ適ク矣。〔宜しく汝の適く所に従ふべし。〕（おまえが行きたいところへ行けばよい。）

＊「宜」が再読文字ではないとき＝「むベナリ」と読み「もっともだ」の意味。

⑥

須＝須(すべか)ラク～ベシ／（必ず～する必要がある・しなければならない）

（例）須レ学。〔　　　　　　〕（　　　　　　　　　　　）

⑦

猶・（由）＝猶(な)ホ・（由(な)ホ）～〔ガ・ノ〕ごとシ／（ちょうど～のようだ・と同じだ）

- V連体形＋ガ（…過ぎたるはなほ及ば**ざる**がごとし）
- 体言ノ（…春の夜の**夢**のごとし）

（例）今之楽、猶二古之楽一。〔今の楽、猶ほ古の楽のごとし。〕（今の音楽は、ちょうど昔の音楽のようだ。）

＊「猶」が再読文字ではないとき＝「なホ」と読み、「やはり・まだ・いっそう」と訳したり、「抑揚形」の文で使われる。

⑧

盍＝盍(なん)ゾ～ざル／（どうして～しないのか・～すればよいではないか）

（例）盍二以テレ疾ヲ辞一セ。〔盍ぞ疾を以て辞せざる。〕（どうして病気を理由にして辞退しないのか。）

問一　次の文を、返り点に従って書き下し文にせよ。

妾ハ宜下シク以レテ身ヲ薦(すす)二メ其ノ棺(くわん)槨(かく)一ニ、守リ-養中フ其ノ幼(よう)孤(こ)上ヲ。

注　棺槨…ここでは、棺桶に納められた夫のことを指す。
　　幼孤…幼い遺児。

問二　次の文は「禹は天下に溺(おぼ)るる者有れば、由(な)ほ己(おのれ)之(これ)を溺らすがごとしと思へり。」と読む。これに従って、返り点を施せ。

禹 思 天 下 有 溺 者 、由 己 溺 之 也 。

問三　「須」の意味として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

ア　～であろう　　イ　～するだけだ　　ウ　～することが必要だ

問四 「病ミテ且死、…」の傍線部の　A　読み方と　B　解釈として最もふさわしいものを、次の中からそれぞれ選べ。

A
ア　まさにしせんとし　　イ　まさにしすべくして
ウ　よろしくしすべくして　　エ　すべからくしすべくして
オ　なんぞしせんとし

B
ア　少しの間、死んだようになって　　イ　死んだ方がましだと思って
ウ　今や死にそうになって　　エ　必ず殺されると思って
オ　それでも生きたいと望んで

問五 「当如此也ト。」の書き下し文として、最も適切なものを次の中から選べ。

1　当(まさ)に此(か)くの如(ごと)くなるべきなりと。
2　当(あ)たるも如(も)しくは此(こ)れにあらんやと。
3　当(まさ)に此(こ)れに如(し)くものあらんやと。
4　如(ゆ)くに当(あ)たりて此(か)くなるべきなりと。

問六「盍試一思之。」の A 訓読と B 意味について、正しいものを次の中からそれぞれ一つずつ選べ。

A 訓読

ア　けだし試みに之を一に思ふ
イ　なんぞ試みに一たび之を思はざる
ウ　いはんや一たび之を思ふことを試みんや
エ　まさに一に之を思ふことを試みんとす
オ　あに一を試みて之を思はんや

B 意味

ア　ましてや一度はこのことを考えないことがあろうか
イ　いったい一つのことを試してこのことを考えようか
ウ　これからひたすらこのことを考えるのを試みてみよう
エ　どうしてこのことを一度試みに考えてみないのか
オ　おそらくもっぱらこのことを考えようと試みるであろう

問七　「当㆓為㆑子沽㆒酒。」を書き下し文にせよ。

注　沽…買う。

問八　「甘茂亡㆑秦、且之斉、…」の傍線部をひらがなのみの書き下し文にせよ。

注　甘茂…秦の宰相。
斉…地名。

問九　「不当発悪願。」を漢字ひらがなまじりで書き下せ。

第2講 PART1 確認問題

① 「唯(た)だ春江の看(み)れども未(いま)だ厭(あ)かざる有り。」と読むには、返り点はどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　唯　有㆓春　江　看㆒レ未レ厭。
イ　唯　有㆓春　江　看　未㆒レ厭。
ウ　唯　有㆔春　江㆓看　未㆒レ厭。
エ　唯　有㆔春　江㆓看　未㆒厭。

② 「当㆓相　取㆒也。」は「どうしても（あなたを）つかまえなければならない。」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あひとるにあたれるなり。
イ　まさにあひとるべきなり。
ウ　よろしくあひとるべきなり。
エ　まさにあひとらんとするなり。

③ 「猶」は「なホ～ごとシ」と読む再読文字の一つである。再読文字でないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　応　　イ　遂　　ウ　宜　　エ　須

④　「将有重賞。」をひらがなで書き下した文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　もちひてしやうをおもんずるあり。
イ　もつてぢゆうしやうあらんとす。
ウ　ひきゐてぢゆうしやうあらんとす。
エ　まさにぢゆうしやうあらんとす。

⑤　「盍㆔各（おのおの）言㆓爾（なんぢ）志（こころざし）。㆒」の訓読として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まさに各爾の志を言はんとす。
イ　まさに各爾の志を言ふべし。
ウ　なんぞ各爾の志を言はざる。
エ　よろしく各爾の志を言ふべし。

二 使役形

① 基本…助動詞を使ったもの

S　［使・令・遣・教・俾］三　N　V二　O一

S＝主語
N＝使役の対象。助動詞の直下の名詞（人が多い）。
V＝動作
O＝動作の目的

〈読〉＝SNヲシテO｛ヲ／ニ｝Vしム

＊N（助動詞の直下の名詞）には「をして」の送り仮名を必ず送る。

＊**Vは未然形**に活用させる。

〈訳〉＝SはN｛に命じて／をつかわして／に／を｝O｛を／に｝Vさせる。

（例）王 使 人 求 之。（　　）（　　）（　　）

＊ SNVOは全てがそろっているとは限らないので、まずSNVOのうちのどれがあるか確認すること。（Vの部分は絶対に省略されない。**→まずVを探す**。）

〔例題一〕 次の「**使**」以外の各漢字の右横に、文の要素（S、N、V、O）の該当するものを書け。

(1) 王 **使** 臣 書 文。

(2) 王 **使** 臣 書。

(3) 王 **使** 書 文。

(4) **使** 書。

＊ Vが二つ以上ある場合、使役がどこまでかかるか文脈判断する必要があるので注意！

（例）王 使 臣 書 文 読 之。

王 使_二 臣 書_{一レ} 文 読_レ 之。

王 使_二 臣 書_レ 文 読_{一レ} 之。

②　使役を暗示する動詞を使ったもの

命ジテ
令シテ
召シテ
勧メテ
教ヘテ
遣ハシテ
説キテ
｝～Ｖ（シム）

禁ジテ
戒メテ
｝～不レ Ｖ（ラシム）

③　本文中の他の箇所において、同一漢字の送り仮名に「シム」がついているときは注意。

問十　「王大イニ怒リ、<u>使人殺中射之士</u>。」の傍線部を書き下せ。

注　中射之士…宮中宿衛に当たる武官の侍従。

問十一　次の文を、返り点に則して、書き下し文に直せ。

妻使下妾挙二薬酒一進上之。

＊進…サ変動詞「進ず」

注　妾…下女。
　　薬酒…毒薬を入れた酒。

問十二　次の文を「相（しやう）をしてこれを聘（へい）せしむ」と読めるように、返り点をつけよ（送り仮名は不要）。

使相聘焉。

問十三　次の文は「子どもに金を持たせ、つぼをぶら下げて酒屋に行き酒を買ってこさせる」という意味である。これに基づいて返り点をつけよ。ただし送り仮名はつける必要は無い。

令 孺 子 懐 銭 挈 壺 甕 而 往 酤 。

注　孺子…子ども。
挈…ひっさげる。
壺甕…酒を入れるつぼ。
酤…ここでは「買う」。文脈によって「うる」とも「かう」とも読む。

問十四　「使 公 以 馬 殺 人」をすべてひらがなで書き下せ（現代仮名遣いでよい）。

注　公…斉の君主、景公（けいこう）。

問十五　「使三汝 不レ死二於 人 之 手一。」をひらがなのみを用いて書き下せ（現代仮名遣いでよい）。

〈Memo〉

第２講　PART２　確認問題

①「使二相償レ之。」は「相（しやう）（「宰相」の意）の手で銭を弁償させようとした。」という意味である。どのように読むのが正しいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　相をして之を償ふ。

イ　相をして之を償はしむ。

ウ　相をして之を償ふべし。

エ　相を使ひて之を償はしむ。

②「四面の騎（き）をして馳（は）せ下らしめ、…」と読むには、返り点をどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　令二四面騎馳下一、…

イ　令二四面騎馳レ下、…

ウ　令三四面騎二馳レ下、…

エ　令二四面騎レ馳下、…

③「鯀(こん)をして之(これ)を治(をさ)めしむ。」と読むには、返り点をどのようにつけるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

注　鯀…人名。

ア　使レ鯀レ治レ之。
イ　使二鯀治一レ之。
ウ　使二鯀治之一。
エ　使二鯀レ治之一。

④「使二一年一度相会一。」をひらがなで書き下した文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いちねんにいちどあひくわいつかはしむ。
イ　いちねんにいちどあひくわいつかはす。
ウ　いちねんにいちどあひくわいすしむ。
エ　いちねんにいちどあひくわいせしむ。

⑤「責令レ帰二河東(かとう)一、…」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　河東…川の東側。

ア　河東に帰らしめよと責め、…
イ　責めて河東は帰らしめんと、…
ウ　責めて河東に帰らしめ、…
エ　責めて河東を帰れしめ、…

PART1　受身形

一　受身形

①　基本…助動詞を使ったもの

見　被　為　所 ＋ レV

〈読〉＝ V（四段・未然形）＋る
　　　　V（四段以外・未然形）＋らル

〈訳〉＝Vされる

〈例〉見レ用キ。〔　　　　〕
　　　見レ従ハ。〔　　　　〕

問一　「見レ召。」の「見」の説明として最も適当なものを、次の①〜⑤のうちから一つ選べ。

① 「使」と同じで、「〜させる」という意味である。
② 「被」と同じで、「〜される」という意味である。
③ 「示」と同じで、「しめす」という意味である。
④ 「現」と同じで、「あらわれる」という意味である。
⑤ 「謁見」の「見」と同じで、「まみえる」という意味である。

問二　「有（たもツ）レ人ヲ者ハ累（わづら）ヒ、<u>見レ有</u>二於人一ニ者ハ憂フ。」の傍線部の読みを送り仮名まで含めてカタカナで答えよ。現代仮名遣いでも構わない。

②　助動詞を使わないもの

(1)　**為**二N**所**一レV

〈読〉＝NノVスルところトなル

〈訳〉＝NにVされる

(例)　為唐廷ノ文士所推奨。（　　　　　）（　　　　　）

(2)　V二ラル／ル　于・乎・於　N一　　N＝Vの動作主

〈読〉＝NニV{ル／ラル}

〈訳〉＝NにVされる

③　本文中の他の箇所において、同一漢字の送り仮名に「る・らル」がついているときは注意。

問三　「本 為(二)鳥 所(レ)設、今 為(二)人 所(レ)資」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤の中から一つ選べ。

① 鷹は、もともと獲物を捕る才能を備えており、今も人のために役立っている
② 小鳥は、もともと鷹が食料としていたものであるが、今では人が食料としている
③ 雉(きじ)や兎(うさぎ)は、もともと鷹のために天が授けたものであるが、今は人の食料となっている
④ 翼や爪は、もともと鷹のためにつけられているものなのに、今は人に利用されている
⑤ 鷹狩りは、もともと鷹の訓練のために始められたものであるが、今では人の娯楽となっている

問四　「今 臣 不 肖(ニシテ)、棄(二)-逐 於 秦(一)而 出(レ)(ヅ)関(ヲ)。」の「於」と同じ意味の「於」を含む文を次の中から一つ選べ。

注　棄逐…追い出す。

ア　不義而富且貴、於(レ)我如(二)浮雲(一)。
イ　曹操比(二)於袁紹(一)、則名微而衆寡。
ウ　労(レ)心者治(レ)人、労(レ)力者治(二)於人(一)。
エ　停(レ)車坐愛楓林晩、霜葉紅(二)於二月花(一)。

第3講　PART1　確認問題

①「不レ被レ罪」の送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　つみせしめず
イ　つみせれず
ウ　つみせこうむらず
エ　つみせられず

②「吾嘗テ三タビ仕ヘテ三タビ見レ逐(お)ハ二於君ニ一。」の傍線部の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　三度主君が追うのを見た。
イ　三度主君に追い出された。
ウ　三度主君を追い出させた。
エ　三度主君に謁見した。

③「為鼠所齧。」は「鼠（ねずみ）に齧（かじ）られる。」という意味である。読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ねずみのかじるところたり。
イ　ねずみのなすところかじらる。
ウ　ねずみのかじるところとなる。
エ　ねずみのためにかじらしむ。

④「嘗テ遊ビ㆑楚ニ、為ル㆓楚ノ相ノ所ト㆑辱シムル㆒。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　楚相…楚（国名）の宰相。

ア　以前楚の国に遊説したとき、楚の宰相に恥をかかされた。
イ　以前楚の国で遊説したとき、楚の相手が恥をかいた場所があった。
ウ　以前楚の国に遊説したとき、楚の宰相に恥をかかせてしまった。
エ　以前楚の国で遊説したとき、楚の相手が恥じたことがあった。

⑤「友人に信頼されないようであれば、君主に信任されない。」という意味にするには、左の二か所の空欄にどの語をあてはめるとよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。なお、二か所の空欄には同じ語が入る。

不㆑信㆓［　　］友㆒、弗㆑獲㆓［　　］上㆒矣。

ア　而　　イ　於　　ウ　為　　エ　可

PART2　単純否定・不可能

二　**否定形**（…基本的に直後の語から返る）

Ａ　**「単純否定」**

①　**不・弗＝ず**／（**〜しない**）

【動作】の否定。↓直下はＶ。（＊ＡやＮを否定することもある）

（例）　不聴。　〔聴かず。〕（聴かない。）

②　**無・莫・毋・勿＝なシ**／（**〜がない**）

【存在・所有】の否定。↓直下はＮ。

Ｖの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

＊「命令（禁止）文」のとき↓「**なカレ**」と読む。

（「**勿**」は禁止を表すことが多い。）

（例）　無情。　〔情け無し。〕（思いやりがない。）

＊　勿忘。　〔忘るる勿かれ。〕（忘れるな。）

③　**非・匪**＝（～ニ）あらズ／（**～ではない**）
【状態・内容】の否定。**↓**直下はN。
Vの場合は連体形（＋モノ・コト）と読む。

（例）非人也。〔　　　　〕（　　　　）

問五「自疑非夢。」の正しい訓読を次の中から選べ。

ア　自ら夢を疑ひて非ずとす。
イ　自ら夢に非ざるかと疑ふ。
ウ　自ら夢を疑ふを非る。
エ　自ら疑ふを非りて夢みる。

Ｂ「不可能（＝～できない）」の形

①　**不可**V＝V〈終止形〉ベカラず（許可）

（例）不可出。〔　　　　〕（　　　　）

② **不能**Ｖ＝Ｖ〔連体形〕（コト）あたハず（能力）

（例）不能正（ス）レ君（ヲ）。〔　　　　〕〔　　　　〕

③ **不得**Ｖ＝Ｖ〔連体形〕ヲえず（機会）

（例）不得謂。〔　　　　〕〔　　　　〕

注　謂…言。

問六　「不得視」の解釈として最も適切なものを、次の中から選べ。

イ　たちまち消えてしまった。
ロ　見ないわけにはいかなかった。
ハ　見ることができなかった。

問七　「不（ル）レ能（ハ）レ得（ル）也。」を現代語訳せよ。

問八　「竟不能帰。」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。現代仮名遣いを用いてもよい。

問九　「不レ能三与レ君陥二於難一。」を書き下し文にせよ。

〈Memo〉

第3講　PART2　確認問題

① 「関をふさいで、諸侯を関の中に入れてはいけない。」という意味にするには、左の空欄にどの語をあてはめるとよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

距レ関□レ内二諸侯一。

ア 毋　イ 不　ウ 且　エ 能

② 「非人之所能為也。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア 人の所は非ざれば能（のう）たるなり。
イ 人の為す能（あた）ひて非ざる所なり。
ウ 人の能（よ）く為す所に非ざるなり。
エ 人の非ざれば之を為す能（あた）ふ所なり。

③「自作孽（わざはひ）、不レ可レ活。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　孽…災い。「禍」と同じ。

ア　自分でなした災いは、のがれて助からないわけにはいかない。
イ　自分でなした災いは、のがれて助かることはできない。
ウ　自分でなした災いは、のがれて助からないこともない。
エ　自分でなした災いは、のがれて助かるすべがない。

④「懐二佳人一兮不レ能レ忘。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　兮…置き字

ア　わするることよくせざるかじんをおもふ。
イ　かじんをおもひてよくわすれず。
ウ　わするるあたはざるかじんをおもふ。
エ　かじんをおもひてわするるあたはず。

⑤「非二有レ詔召一、不レ得レ上。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　詔によって召されることを非難し、決して殿上に上らなかった。
イ　詔によって召されるのでなければ、殿上に上ることはできなかった。
ウ　詔によって召されることを非難し、殿上に上ろうとはしなかった。
エ　詔によって召されるのでなければ、殿上に上れないこともなかった。

PART3　二重否定・全部否定と部分否定

C 「二重否定」⇒ 強い肯定！

① **無不**～＝～ざル（ハ）なシ　／（～しないものはない＝必ず～する／皆～する）

② **非不**～＝～ざル**ニ**あらズ　／（～しないのではない＝非常に～する）

③ **非無**～＝～なキ**ニ**あらズ　／（～がないのではない＝～がたくさんある／いる）

④ **無非**～＝～**ニ**あらザル（ハ）なシ　／（～ではないものはない＝皆～だ）

⑤ **不可不**～＝～ざルベカラず　／（～しないわけにはいかない）

（例）不可不察也。〔　　　〕〔　　　〕

⑥ **不敢不**～＝～あヘテ～**ずンバ**アラず
（どうしても～しないわけにはいかない）

（例）不敢不尽。〔　　　〕〔　　　〕

注　尽…「尽（つ）くす」。

⑦ **未嘗不**～＝いまダかつテ～**ずンバ**アラず
（今まで一度も～しなかったことはない＝いつも必ず～する）

問十　「未ダル二嘗テ不ンバアラレ悲シマ二石荊州之為なりヲレ人ト也。」を現代語訳せよ。

注　石荊州…人名。

悲…あわれむ。

問十一　「莫二不レ観者一。」を書き下し文にせよ。

問十二　「人不レ可レ不二自勉一。」を全てひらがなで書き下し文にせよ。

問十三　「非二以レ無レ人而不レ芳。」とはどういう意味か。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

a　見てくれる人がいてはじめて、芳しい花の存在が知られるわけではない。

b　見てくれる人が現れるかどうかで、花がその香りを変えることはない。

c　見てくれる人がいないからといって、芳しい香りを漂わせないわけではない。

d　人が見てくれることを求めて、芳しい香りを発するわけではない。

D　「全部否定」と「部分否定」（右が全部・左が部分）

①
常不～＝つねニ～ず／（いつも～ない）
不常～＝つねニ**ハ**～ず／（いつも～とは限らない）

②
必不～＝かならズ～ず／（必ず～ない）
不必～＝かならズ**シモ**～ず／（必ず～とは限らない）

③
倶不～＝ともニ～ず／（両方とも～ない）
不倶～＝ともニ**ハ**～ず／（両方ともは～ない）

④
復不～＝まタ～ず／（今回もまた～ない）
不復～＝まタ～ず／（二度とは～ない）…一度はするが二度としないの意味。

⑤
盡（尽）不～＝ことごとク～ず／（すべて～ない）
不盡（尽）～＝ことごとク**ハ**～ず／（すべて～とは限らない）

⑥
甚不～＝はなはダシク～ず／（ひどく～ない）
不甚～＝はなはダシク**ハ**～ず／（それほど～とは限らない）

問十四　「若(もシ)使(ムルモ)レ呪(まじなハ)レ臣(ヲ)、必(ズ)不(ト)レ能(ハ)レ行(フコト)」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　もし胡僧が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう
イ　もし陛下が私に呪術をかけても、かかるとは限らないでしょう
ウ　もし胡僧が私に呪術をかけても、かからないとは限らないでしょう
エ　もし胡僧が私に呪術をかけても、絶対にかからないでしょう

問十五　「未尽了。」を、すべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

注　了…サ変動詞。

問十六　「不二復解一レ樹」を口語訳せよ。

注　解…（樹木の）株を分割する。

第3講　PART3　確認問題

①　「無㆓思不㆑服。」の書き下し文と意味の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　服せずして思ふ無し。――　心服せずに慕うことはない。

イ　思ひに服せざる無し。――　考えに心服しないことはない。

ウ　服せざる思ひ無し。――　心服しないという考えはない。

エ　思ひて服せざる無し。――　慕って心服しないことはない。

②　「不㆑可(カラ)㆑不(ル)㆔蚤(はやク)自(ラ)来(タリテ)謝(セ)㆓項王(かうわうニ)㆒。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　早く自らやって来て、項王に謝罪することは決してありません。

イ　早く自らやって来て、項王に感謝しないこともありません。

ウ　早く自らやって来て、項王に謝罪しないわけにはいきません。

エ　早く自らやって来て、項王に感謝したくてしかたありません。

③　「吾未二嘗不一レ得レ見也。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　われいまだこころみてまみゆることをえずんばあらざるか。
イ　われいまだかつてまみゆることをえずんばあらざるなり。
ウ　われいまだかつてまみゆることをえざるはなきなり。
エ　われいまだこころみてまみゆることをえざるにあらずや。

④　「兎不レ可二復得一、…」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　うさぎを二度とは得ることができず、…
イ　うさぎを常に得ることができるとは限らず、…
ウ　うさぎを今回もまた得ることができず、…
エ　うさぎをすべて得ることができず、…

⑤　「其勢不倶生。」をすべて平仮名で書き下し文にしたものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　そのいきほひことごとくはいきず。
イ　そのいきほひともにいきず。
ウ　そのいきほひまたいきず。
エ　そのいきほひともにはいきず。

PART4　特殊な否定

E 「特殊な否定」

① **未嘗**～＝いまダかつテ～ず／（今まで一度も～ない）

（例）未嘗夜読。〔未だ嘗て夜に読まず。〕（今まで一度も夜中に（書物を）読んだことがない。）

② **不敢**～＝あヘテ～ず／（決して～ない）

（例）不㆓敢ヘテ知㆒ラ。〔敢へて知らず。〕（決して知らない。）

> ★似ているので要注意！
> ＊　敢不～（乎）＝あヘテ～ざランや
> （どうして～ないことがあろうか、いや～する）

③ **A不可勝B**＝｛AあゲテBべカラず／ABニたフベカラず｝／（AはBきれないほど多い）

（例）星不㆑可㆓勝数㆒。〔　　　　〕（星は数えきれないほど多い。）

（例）星不㆑可㆑勝㆑数。〔　　　　〕（星は数えきれないほど多い。）

④

無A無B【AとBが対義語】　＝AトなクBトなク／（AとBの区別なく）

＊AとBが対義語ではないとき＝AトシテBなキハなシ／（AにはすべてBがある）

（例）　無貴無賤、…〔　　　　　　〕（　　　　　　　　　）

　　　　無人無情。〔　　　　　　〕（　　　　　　　　　）

⑤

無N不V＝NトシテVざルハなシ／（VしないNはない＝Nなら必ずVする）

（例）　無人不学。〔　　　　　　〕（　　　　　　　　　）

第3講　PART4　確認問題

① 「未嘗至於偃（えん）之室也。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　偃…人名。

ア　未だ嘗て偃の室に至る。
イ　未だ偃の室に至ること嘗てあらざるなり。
ウ　未だ嘗て偃の室に至らざるなり。
エ　未だ偃の室に於いて嘗て至る。

② 「強秦（しん）ノ不ル㆔敢ヘテ加㆓ヘ兵ヲ趙（てう）ニ㆒者ハ、…」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　強力な秦が決して趙に対して兵を挙げないのは、…
イ　強力な秦が趙に対して兵を挙げないことがあろうか、いや、挙げるはずで、…
ウ　強力な秦はどうしても趙に対して兵を挙げないわけにはいかず、…
エ　強力な秦が勇気を出して趙に対して兵を挙げることができないのは、…

③「穀不レ可二勝食一也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　穀物は満足に食べるほどはない。
イ　穀物は決して食べてはいけない。
ウ　穀物は食べるのに勝ることはない。
エ　穀物は食べきれないほど多い。

④「無レ富無レ貧、皆敬二父母一。」の傍線部の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　とみとしてひんなきはなく、
イ　とみなくんばひんもなく、
ウ　とみとなくひんとなく、
エ　とみなくしてひんなく、

⑤「無二物不一レ消。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ものは決して消滅しない。
イ　消滅しないものはない。
ウ　ものは消滅することもある。
エ　消滅しないものもある。

PART1　疑問形（文頭形）

一　疑問形　※送り仮名が「〜ンや」の場合は、**反語**である。

A　「文頭形」

① **何・奚・胡・曷**＝なんゾ〜／（どうして〜か）

＊　左記の二字熟語としてよくでる。

「**何不**〜」＝なんゾ〜ざル／（どうして〜しないのか）

「**何能**〜」＝なんゾよク〜／（どうして〜できるのか）

（例）　何不謂。　〔　　　　〕（　　　　）

② **何**＝

- **なにヲカ**〜／（何を〜か）
- いづレノ〜／（どの〜か）
- いづクニ（カ）〜／（どこに〜か）
- いづレ〜／（どちらの〜）

＊　何日＝いづレノひニカ／（いつ）

＊　何処＝いづレノところニカ／（どこ）

（例）　何（ヲカ）能（クスル）。〔何をか能くする。〕（何ができるのか。）

③ **何為**＝なんすレゾ～／（どうして～か）

＊ 何為ル者ゾ＝なんするものゾ／（何者か）

＊ 何ヲ為(なス)二～一ト＝なにヲ～トなス／（何を～と判断するのか）

（例）何為去ルヤレ我。（　　　　）（どうして私を追い出すのか。）

④ **誰**＝
- たれカ～／（誰が～か）
- たれヲカ～／（誰を～か）

＊ 誰カ～者ゾ＝たれカ～ものゾ／（誰が～か）

⑤ **孰**＝
- 「多数」…たれカ～／（誰が～か・どれが～か）
- 「二者択一」…いづレカ～／（どちらが～か）→二者が必ず示される

⑥ **何以**＝なにヲもつテ（カ）～／
- （「理由」…どうして～か）
- （「手段」…何によって～か）

⑦ **安・悪・焉**＝
- いづクニカ～／（どこに～か）
- いづくンゾ～／（どうして～か）

⑧ **如何・奈何・若何**～＝**いかんゾ**～／（どうして～か）

＊ **文末にあれば「いかんセン」**（B「文末形」⑤参照）

第4講　PART1　確認問題

① 傍線部のうち、読み方が他と異なるものを、次の中から選べ。

ア　何日平二胡虜一、…　（いつになったら胡虜（こりょ）を平定して、…）

イ　何為不レ去也。（どうして去らないのか。）

ウ　何處得二秋霜一。（どこで秋霜のような白髪を得たのか。）

エ　何時一樽酒、…　（いつか一樽（いっそん）の酒をくみかわして、…）

② 「孰能使二之然一。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　孰ぞ能く之を然らしめん。

イ　孰の能か之きて然らしめん。

ウ　孰か能く之をして然らしめん。

エ　孰んぞ能く之を然りとせしめん。

オ　孰れの能か之をして然らしめん。

③　疑問の句形でないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　何(レノ)日(カ)是(レ)帰年(ナラン)。

イ　何為(レゾ)其(レ)莫(カラン)レ知(ル)レ子(ヲ)也。

ウ　何(ヲ)為(サバ)則(チ)民服(セン)。

エ　何為(レゾ)於(テスルヤト)是(ニ)。

④　［　　］にあてはまる現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

何(ヲ)以(テカ)報(イン)レ徳(ニ)。以(テ)レ直(ヲ)報(イ)レ怨(うらミニ)、以(テ)レ徳(ヲ)報(イン)レ徳(ニ)。

（［　　］。怨みには正しさをもって報い、徳には徳をもって報いるものである。）

ア　徳に報いるとはどのようであるか

イ　どうして徳に報いるのだろうか

ウ　徳に報いることができるだろうか

エ　何によって徳に報いたらよいだろうか

⑤　傍線部の送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

君子去レ仁、悪乎成レ名。（君子が仁を離れ、どこに名誉が成り立とうか。）

ア　いづくにか　　イ　いづれ　　ウ　あしく　　エ　にくんで

〈Memo〉

PART2 疑問形（文末形）

B 「文末形」

① **〜乎・哉・耶・邪・也・与・歟。**＝や・か／（〜か）

② **〜何也。**＝〜ハなんゾや／（〜はどうしてなのか）

（例）云フハレ登ルトレ第ニ、何也。〔第に登ると云ふは、何ぞや。〕（試験に合格すると言うのは、どうしてなのか）

③ **幾何。**＝いくばく（ゾ・カ・ナラン）／（どれくらいだろうか）　＊ 文中の場合も有り。

★「反語」の場合は（〜どれくらいだろうか、いや、どれほどでもない）と訳す。

④ **何如・何奈・何若。**＝**いかん**／（〜はどのようであるか）【状態・結果】

（例）以五十歩笑百歩、則何如。〔五十歩を以て百歩を笑はば、則ち何如。〕
（自分は五十歩しか逃げていないと言って百歩逃げた人を笑ったとしたら、どうだろうか。）

⑤ **如何・奈何・若何。**＝**いかん（セン）**／（〜はどうするか）【方法】

＊ 如〇何＝〇ヲいかんセン／（〇をどうすればよいか）

★「反語」の場合は（〜どうしようもない）と訳す。

（例）若我何。〔　　　　　　〕（私をどうしようか、いや、どうしようもできない。）

問一　「奈何」の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

①　なんぞ　②　いづれぞ　③　いかんぞ　④　なんすれぞ　⑤　いづくんぞ

問二　「何以知レ之」の意味として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　それがわかるはずがあるだろうか
イ　そのことがいつわかったのか
ウ　何としてもそれを知りたいのか
エ　どうしてそれがわかるのか
オ　誰（だれ）がそれを教えてくれたのか

問三　次の傍線部を「此」が指す内容を明示して口語訳せよ。

禹出デテ見二罪人一ヲ、下レリテ車ヲ而泣レク之ニ。左右曰ハク、「〈中略〉君王何為レゾ痛ムコト之至二レルカ於此一ニ也。」

注　禹…中国古代の伝説上の聖天子。
　　左右…側近。近臣。

第4講 PART2 確認問題

① 「与(と)二朋友一交(ハリテ)而不(ル)レ信(ナラ)乎(か)。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　友人と交わるのに、信義が足らない場合がある。
イ　友人と交わるのに、信義が不足していてはいけない。
ウ　友人と交わるのに、信義がない人はふさわしくない。
エ　友人と交わるのに、信義が欠けていないだろうか。

② 「敢問何也。」を「あえて問うが、なぜか。」という意味になるように読み下したものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　あへてなにをかとふや。
イ　なにをあへてとふや。
ウ　あへてとふなんぞや。
エ　あへてとふなにか。

③ 「此(レ)所(ノ)レ用(フル)翠羽幾何(ゾ)。」を現代語訳したとき、[　]にあてはまる言葉として最も適当なものを、次の中から選べ。

これに使われている[　]。

ア　カワセミの羽とは、どのようなものでしょうか　　イ　カワセミの羽は、どれくらいの量でしょうか

ウ　カワセミの羽を、どのようにしましょうか　　エ　カワセミの羽は、どちらのものでしょうか

④ 「貧(シクシテ)而無(ク)レ諂(へつらフコト)、富(ミテ)而無(キハ)レ驕(ルコト)何如。」では、何をたずねているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　理由　　イ　目的　　ウ　方法　　エ　状態

⑤ 「以(テ)二行(ヒト)与(とヲ)レ事示(スト)レ之(ヲ)者(は)、<u>如レ之何。</u>」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　示之者…これ（天の意志）を示すというのは、という意味。

ア　これをどうすればいいのか

イ　これをしなければならない

ウ　これは難しいことだ

エ　これは行われるだろう

PART3 反語形

二 反語形

＊ 一 **疑問**と同じ形のものは基本的に省略します（その場合は**送り仮名「〜ン・〜ンや」が反語の目印**。白文の場合は**文脈判断**）。
それ以外の「**反語**」特有の句法をここで紹介します。

① **豈**〜（**哉・乎**）＝あニ〜**ン**（**や**）／（どうして〜だろうか、いや、〜ない）

（例）豈ニ古之糸シ竹ちくナラン乎。〔豈に古の糸竹ならんや。〕（どうして昔の楽器であろうか、いや、ちがう。）

② **安・悪・焉・寧**〜（**哉・乎**）＝いづクンゾ〜**ン**（**や**）／（どうして〜だろうか、いや、〜ない）

（例）国焉得レ無レ亡ほろブル乎。〔　　　　〕（　　　　）

③ **豈能**〜＝あニよク〜**ン**／（どうして〜できるだろうか、いや、できない）
安能〜＝いづクンゾよク〜**ン**／（どうして〜できるだろうか、いや、できない）
誰能〜＝たれカよク〜**ン**／（誰が〜できるだろうか、いや、誰もできない）

④ **敢不～乎**＝あヘテ～ざ**ランや**　／（どうして～しないことがあろうか、いや、～する）

（例）敢不知乎。〔　　　　〕（　　　　）

⑤ **何N之有**＝なんノNカこレあ**ラン**／（何のNがあろうか、いや、何のNもない）

（例）何難(キコトカ)之有。〔　　　　〕（　　　　）

⑥ **如何・奈何・若何**

〈文頭〉いかんゾ～**ン**／（どうして～だろうか、いや、～ない）

〈文末〉～ハいかんセン／（～はどうしようもない）

⑦ **可～乎**＝～**ベケンや**／（～できるだろうか、いや、できない）

（例）何(ゾ)可(ケンヤ)レ緩(ゆるクス)。〔何ぞ緩くすべけんや。〕（どうして緩めることができようか、いや、できない。）

＊ 疑問詞〜ン／〜ンや／疑問詞〜ンや ＝反語

＊ 〜ン＝推量

問四 「豈古之鶯(おう)花(かナラン)乎。」の傍線部の読みを、送り仮名も含めて平仮名で示せ。また全文を口語訳せよ。

読み＝

口語訳＝

問五 「晏(あん)子(し)焉知礼」を反語の意味になるように、すべて平仮名で書き下し文にせよ（現代仮名遣いでもよい）。

問六 「豈有(ラン)下以(テシテ)二忠信(ヲ)一而得(ル)レ罪(ヲ)者上乎。」を現代語訳せよ。

● 人何ゾ頼ラン焉。〔人何ぞ頼らん。〕（人がどうして頼るだろうか、いや、頼らない。）

● 何ノ功ナルか也。〔何の功なるか。〕（どのような功績であるか。）

問七 「此所レ用翠羽幾何」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　これを作るのに必要な翠羽はとても多い。
イ　これを作るのに必要な翠羽はいくらでもある。
ウ　これを作るにはある程度の翠羽を必要とする。
エ　これに使われた翠羽はたかが知れている。
オ　これに使われた翠羽はどれくらいか分からない。

問八 「城中安得レ有二此獣一」の解釈として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　まちに虎がいて安全といえるのだろうか
イ　まちに虎がいるはずがないではないか
ウ　まちに鼠がいるのは当然ではないか

第4講　PART3　確認問題

①「可ケンレ不ルレ慎マ歟。」にはどのような句形が用いられているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　使役　イ　反語　ウ　限定　エ　比較　オ　禁止

②「豈同二他妓一哉。」の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　どうしても他の妓女たちと同じにしたいのです。
イ　どうやら他の妓女たちと同じらしいのです。
ウ　どうして他の妓女などと同じでありましょうか。
エ　もちろん他の妓女たちと同じはずです。

③ 反語の意味にしかとることができないものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　何為レゾ不ランレ受ケ。
イ　安ンゾ足ランヤレ辞スルニ。
ウ　焉ンゾ知ランレ死ヲ。
エ　何ゾ可ケンレ当タル也。

④「君子はどうして兄弟のないことを悩むだろうか、いや悩まない。」という意味になるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　君子何(なん)ゾ患(うれ)ヘン三乎無キヲ二兄弟一也(や)。
イ　君子何(あ)ヘテ患(うれ)ヘン三乎無キヲ二兄弟一也(や)。
ウ　君子何(いづ)クニ患(うれ)ヘン三乎無キヲ二兄弟一也(や)。
エ　君子何(なんす)レゾ患(うれ)ヘン三乎無キヲ二兄弟一也(や)。

⑤ 「不㆓敢西向㆒」について、（A）その読み方と、（B）これを「敢不㆓西向㆒」と変えた場合の読み方の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

a　西に向かふことを敢へてせず、
b　敢へて西せずして向かはず、
c　敢へて西に向かはず、
d　敢へて西に向かはざらんや、
e　敢へて西せずして向かはざらんや、
f　西に向かふことを敢へてせざらんや、

（A）―（B）
ア　a―e
イ　a―f
ウ　b―d
エ　b―f
オ　c―d
カ　c―e

〈Memo〉

PART1　詠嘆形

一　詠嘆形

①　**不亦A乎。**（亦＝また）＝またAずや／（なんとまあAではないか）

＊乎＝哉

（例）不亦楽乎。〔亦楽しからずや。〕（なんと楽しいではないか。）

②　**豈不A乎。**（豈＝あニ）＝あニA**ずや**／（なんとまあAではないか）

＊乎＝哉

★　豈不～乎＝「豈に～ざらんや」と読めば「　　」の意味になり、（　　）と訳す。

（例）豈不学乎。〔　　〕（　　）

豈不遠乎。〔　　〕（　　）

③ **何**ゾ**（其**レ**）A（也）**。＝なんゾ（そレ）A（や）／（なんとAではないか）

（例）何其浅也。〔　　　　　　〕（なんと浅薄であろうか。）

④ **A（＝連体形）哉**かな**、N也**や**。**＝Aかな、Nや／（Aだなあ、Nは）

（例）美哉、花也。〔美しきかな、花や。〕（美しいなあ、花は。）

⑤ **〜乎・哉・矣・夫・与**。＝〜かな／（〜だな）

（例）嗚呼あぁ美哉。〔嗚呼美しきかな。〕（ああ、美しいなあ。）

⑥ **宜**むベナル**乎**。＝むベナルかな／（もっともだな）

＊乎＝哉

⑦ **已**やンヌル**矣乎**かな。＝やンヌルかな／（残念だな・どうしようもない）

問一　「不㆓亦宜㆒乎。」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　またよろしからず。
イ　またむべならずや。
ウ　またもむべならざらん。
エ　またよろしくせざるなし。
オ　またもよろしくすべからざるなり。

問二　「何其仁ト与㆑明之無㆑不㆑周也」を書き下し文にし、また口語訳もせよ。

注　仁…仁愛。
　　明…明察。
　　周…「周(あまね)し」。広くゆきわたる様子。

〈書き下し文〉

〈口語訳〉

〈Memo〉

第５講　PART1　確認問題

①「賢ナル哉回也。」の書き下し文になるように空欄ａ・ｂに入る組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

「賢なる［ａ］回［ｂ］。」

ア　ａ＝や　ｂ＝や
イ　ａ＝や　ｂ＝なり
ウ　ａ＝かな　ｂ＝や
エ　ａ＝かな　ｂ＝なり

②「かくのごときかな」と読める最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　「如レ斯夫」
イ　「如二斯夫一」
ウ　「如レ斯已矣乎」
エ　「如二斯宜乎一」

③　傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

「舎二其路一而弗レ由、放二其心一而不レ知レ求。哀哉。」

ア　断定　　イ　詠嘆　　ウ　疑問　　エ　推定

④　「不二亦重一乎。」の読み方と解釈の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　まだおもかざるなり。　重いと感じないではないか。
イ　いまだおもかざるや。　なんと重いものではないか。
ウ　またおもからずか。　そんなに重いものだろうか。
エ　またおもからずや。　なんと重いものではないか。
オ　まだおもかざるか。　そんなに重いものだろうか。

⑤　「是何楚人之多也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　なんと楚の国の人の多いことよ。
イ　なぜ楚の国の人が多いのだろう。
ウ　楚の国の人が多いのをどうしたらよいか。
エ　楚の国の人は多いのだろうか、いや多くない。

PART2 比較形・仮定形

二 比較形

① A（ナリ・タリ・シ）二　〔乎・于・於〕　N（ヨリ（モ））一　＝Nヨリ（モ）A／（NよりもA）

（例）霜葉紅二於二月花一。〔霜葉は二月の花よりも紅なり。〕（霜にあたって紅葉した葉は二月の花よりも赤い。）

注　二月花…ここでは桃の花のこと。

② 不レ如カ／弗レ若カ　～ニ　＝～ニしカず／（～の方がよい・～に及ばない）

（例）不如釈臣。（　　　　　　）（　　　　　　）

注　釈…「釈（ゆる）す」。許す。

③ 莫レ如クハ／無レ若クハ　～ニ　＝～ニしクハなシ／（～にこしたことはない・～が一番よい）

（例）莫如良医。（　　　　　　）（　　　　　　）

④ 莫レ／無レ ｝A（ハ）二於N一（ヨリ（モ））＝Nヨリ（モ）Aハなシ／（NよりもAなものはない）

⑤ 莫（シ）レA（＝連体形）（ハ）レ焉（これヨリ）＝これヨリAハなシ／（これが一番Aだ）

問三　「云（ハバ）レ無（シト）レ効、則不如貧医。」の傍線部を平仮名で書き下せ。

問四　「夫鬱莫下甚二於病一者上。」の書き下し文として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

ア　それ鬱は病より甚しきもの莫し。

イ　それ鬱は病より甚しきこと莫きか。

ウ　それ鬱は病を甚しくすること莫し。

エ　それ鬱より病を甚しくするもの莫し。

オ　それ鬱として病を甚しくすること莫かれ。

三 仮定形

① 若～／如～ ＝もシ～バ／（もし～ならば）

＊下から返らない

（例）若(ラバ)然、…　〔若し然らば、…〕（もしそうならば、…）

② 苟～＝いやシクモ～バ／（もし～ならば・かりにも～）

＊①より強い仮定

（例）苟(クモ)遭(ハバ)二其(ノ)時(ニ)一、…　〔苟くも其の時に遭はば、…〕（かりにもしかるべき時世にめぐり会うなら、…）

③ 縦～／仮令～ ＝たとヒ～トモ／（たとえ～としても）

（例）縦(ヒ)遮護(シテ)留(ムルモ)二旧葉(ヲ)一、…　〔縦ひ遮護して旧葉を留むるも、…〕（たとえ覆い守って古い葉を留めておいたとしても、…）

④　**雖**～＝～トいへどモ／（たとえ～としても・～だけれども）

（例）雖レ賢ナリト　…〔賢なりと雖も…〕（たとえ賢者であっても…／賢者であるけれど…）

⑤　使シメバ二ＮＶ一、…＝ＮヲシテＶしメバ、…／（もしＮがＶするならば、…）

⑥　微なカリセバ二～一、…＝～なカリセバ、…／（～がなかったならば、…）

問五　次の文の傍線部ａの読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。また傍線部ｂをすべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

「若(a)必ズ禁ジテ、其レ不レ変ゼバ、則チ(b)雖二造物一有レ所レ不レ能。」

ａ＝

ｂ＝

第5講　PART2　確認問題

①　「不若己者」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　己より若(わか)からざる者
イ　己の若(ごと)くせざる者
ウ　若(も)しくは己ならざる者
エ　己に若(し)かざる者

②　「苟能ク弭(やメ)レ兵ヲ…」の傍線部の、送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　いづくんぞ　　イ　いやしくも
ウ　しかも　　エ　けだし

③　「雖二貧賤廝養(しやう)一、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　であれば　　イ　であっても
ウ　だけではなく　　エ　よりはむしろ

④「苛政猛二於虎一也。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　悪政は虎よりも恐ろしい。
イ　悪政は虎のように恐ろしい。
ウ　悪政が虎によって行われた。
エ　悪政は強い虎のようなものだ。

⑤「<u>微二管仲一</u>、吾其被レ髪（はつヲ）（リ）左レ衽（えりヲ）（ニセン）矣。」の傍線部の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　管仲のおかげで
イ　管仲のためならば
ウ　管仲がいなかったらば
エ　管仲が話してくれたので

PART3　限定形・累加形

四　限定形

①　徒　特　直　但　只　惟　唯

～ダ ノミ ＝たダ～ノミ／（ただ～だけだ）

（例）惟江上之丈人。〔　　　　　　　〕（ただ揚子江のほとりの老人だけだ。）

注　江上…揚子江のほとり。
丈人…老人。

②　独リ～ノミ ＝ひとリ～ノミ／（ただ～だけだ）

（例）妾独リ以テレ衛ヲ為スレ有リト二蘧（きょ）伯（はく）玉（ぎょく）一爾（のみ）。〔妾独り衛を以て蘧伯玉有りと為すのみ。〕

注　以レ衛…ここでは「衛の賢明な人物は」の意味。（私は衛の賢明な人物はただ蘧伯玉だけだと思っていた。）

③
～已（のみ）。
～而已。
～而已矣。
～耳。
～爾。
＝～のみ／（～だけだ）

（例）　若（なんぢハ）不（ル）二忠信（ナラ）一耳。〔若は忠信ならざるのみ。〕（お前が忠信でないだけだ。）

問六　「不（ル）二徒漢・晋・唐・宋（ノミナラ）一也。」の傍線部の読みを送り仮名も含めて平仮名で示せ。

問七　「不（ラン）レ能（ハ）レ安（ンズル）耳。」をすべて平仮名で書き下し文にせよ。

問八　「唯瓶与（しっ）二漆函（かん）一如（シ）レ故（もとノ）。」の傍線部を書き下し文にせよ。

注　漆函…漆の箱。

五　累加形

① **不唯A、（而）亦B**＝たダニAノミナラず、（しかうシテ）またB／（ただ単にAだけでなく、またBでもある）

＊唯＝独（ひとり）

（例）叔不惟薦仲、又能左右之如此。

〔叔惟だに仲を薦むるのみならず、又能く之を左右すること此くのごとし。〕

（鮑叔は管仲を推薦したばかりではなく、また管仲をこのようにうまく補佐していた。）

② **非唯A、亦B**＝たダニAノミニあらズ、またB／（ただ単にAだけでなく、またBでもある）

（例）非徒弗貴之也。

〔徒に之を貴ばざるのみに非ざるなり。〕

（ただ彼を貴ばないだけではないのである。）

③ **豈唯A**＝あニたダニAノミナランヤ／（どうしてAだけであろうか、いや、Aだけではない）

（例）豈独我義也哉。

〔豈に独り我が義のみならんや。〕

（どうして私のためだけの道義であろうか、いや、私だけではない。）

問九　「何 独 丘 也 哉。」はどういうことを言っているのか。次の中から最も適切なものを一つ選べ。

注　丘…孔子の名。ここでは自称。

a　世に認められないのは、私だけではない。
b　世に認められるかどうかは、私のことだけで考えない。
c　世に認められないなかに、私のような者はいない。
d　世に認められなくても、私は私以外の何者でもない。

問十　「豈 独 我 父 哉。」を書き下し文にせよ。

第5講　PART3　確認問題

①「唯」と同じ意味・用法を持つ語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　凡　　イ　夫　　ウ　只　　エ　抑　　オ　蓋

②「豈惟其君無道、亦由㆔股肱（ここう）無㆓良臣㆒。」の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　豈に惟だ其の君の無道は、亦股肱の良臣無きに由るのみ。
イ　豈に惟だ其の君の無道なるのみならんや、亦股肱に良臣無きに由る。
ウ　豈に惟はん其の君無道なれば、亦股肱の良臣無きに由ありと。
エ　豈に惟ふ其の君無道にして、亦股肱に良臣無きは由なりと。

③「楚人ハ沐猴ニシテ而冠スル耳。」に用いられている句法として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　疑問　　イ　限定　　ウ　抑揚　　エ　反語

④　「直不二百歩一耳。」の傍線部の、送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　のみ
イ　また
ウ　じかに
エ　ただ
オ　すでに

⑤　「今独臣有舟。」の返り点と書き下し文の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　今独臣有レ舟。　　今独り臣の舟に有り。
イ　今独レ臣有レ舟。　　今臣独り舟に有り。
ウ　今独臣有レ舟。　　今独り臣のみ舟有り。
エ　今レ独臣有レ舟。　　独りの今臣の舟有り。
オ　今独二臣有一レ舟。　　今臣の舟有るのみ。

第6講　抑揚形・願望形

PART1　抑揚形

一　抑揚形

① A且(スラ)(かツ)B。況(いはンヤ)C乎(ヲ)(や)。＝AスラかつB。いはンヤCヲや。／（AでさえB。ましてCはなおさらだ。）

＊且＝猶(なホ)・尚(なホ)

（例）匹夫猶不レ欲二食言一、況至尊乎。〔匹夫猶ほ食言せんと欲せず、況んや至尊においてをや。〕

（身分の低い者でさえいつわりを述べようとはしない、ましてや身分の高いものならなおさらである。）

② 況(いはンヤ)～乎(ヲ)(や)。＝いはンヤ～ヲや。／（まして～はなおさらだ。）

③ 而(しかルヲ)況(いはンヤ)於(おイテヲ)～乎(ニ)(や)。＝しかルヲいはンヤ～ニおイテヲや。／（まして～においてはなおさらだ。）

問一　「不(ルスラ)レ適(サ)二於用(ニ)一、人猶(ホ)貴(ブ)レ之(ヲ)。況其適二於用一者乎。」の傍線部をすべて平仮名で書き下し文にせよ（現代仮名遣いでもよい）。

＊「適」＝サ変動詞で考えてください。冒頭部分は、出典大学の通り「適さざる」という送り仮名にしてありますがご了承ください。

問二　「児衣在レ側、尚齧、況鞍懸レ柱乎。」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

①　身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
②　太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、いっそ鞍を柱に懸けておいたらどうだろうか。
③　身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、鞍を柱に懸けておくべきではなかった。
④　太祖の衣が子供の傍らにあってさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。
⑤　身近にあった子供の衣でさえかじられるのだから、柱に懸けてある鞍がかじられるのは当然だ。

問三　「況（いはンヤ）能（よク）舎（すテテ）レ母（ヲ）而与（ために）二公軍（ノ）一事（へンや）耶。」を現代語訳せよ。

注　公軍…公の軍隊。
　　事…「事（つか）ふ」。仕える。

第6講　PART1　確認問題

① 「庸人尚羞之。況於将相乎。」の傍線部と同じ意味・用法を持つ語として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　直　　イ　久　　ウ　猶　　エ　唯

② 「子スラ且ツ然リ、況ンヤ※高綱（たかつな）ヲ乎。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　高綱…人名。

ア　あなたでさえそのようだ、まして高綱はなおさらだ。
イ　あなたであればそのようだが、高綱はそうではない。
ウ　あなたがそのようであれば、きっと高綱は違うだろう。
エ　あなたがそのようなので、高綱もそうなのかもしれない。

③ 「布衣之交スラ尚ホ不㆓相ヒ欺カ㆒。況ンヤ大国ヲ乎。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　庶民同士の交際ならばだまし合うことはないでしょう。しかし大国となると相手をだますことも時には必要です。
イ　庶民同士の交際でさえだまし合ったりはしないものです。ましてや大国が相手をだますことなどありえません。
ウ　庶民同士の交際にはだまし合いがつきものです。しかし大国が相手をだますことはゆるされません。
エ　庶民同士の交際ではだまし合うこともあります。それと同じように大国も相手をだますことがあります。

④　「※顔回（がんくわい）尚不レ能レ無レ過、況其余乎。」に用いられている句形と書き下し文の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

注　顔回…人名。

ア　反語形　顔回すら尚ほ過ち無きこと能はず、況んや其の余をや。
イ　反語形　顔回すら尚に過ち無きこと能はず、況んぞ其の余をや。
ウ　抑揚形　顔回すら尚ほ過ち無きこと能はず、況んや其の余をや。
エ　抑揚形　顔回すら尚に過ち無きこと能はず、況んぞ其の余をや。

⑤　「［　　］不ルレ為（た）ラ二※管仲（くわんちゆう）一者ヲ乎。」が「まして管仲でない者はなおさらだ。」という意味になるには、空欄にどのような語を入れるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

注　管仲…人名。

ア　不可　　イ　何為　　ウ　豈唯　　エ　而況

二 願望形

① **願**＝ねがハクハ～ ｛ ～ン ／ 命令 ｝

② **請**＝こフ～ ｛ ～ン ／ 命令 ｝

③ **庶**＝こひねがハクハ～ ｛ ～ン ／ 命令 ｝

＊庶＝幾／庶幾

★ ①～③ ｛ ～ン…どうか～させてください ／ 命令…どうか～してください ｝

（例）願ハクハ聞カン二其ノ説ヲ一。〔願はくは其の説を聞かん。〕（どうかその説明を　　　　。）

願ハクハ察セヨレ之ヲ。〔願はくは之を察せよ。〕（どうかこれを　　　　。）

問四「臣請フ、道ハン二三言ヲ一而已。」を現代語訳せよ。

〈Memo〉

第6講　PART2　確認問題

① 「□聞二子之志一。」が「どうか先生の理想を聞かせてください。」という意味になるには、空欄にどのような語を入れるのがよいか。最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　言　　イ　使　　ウ　被　　エ　願

② 「願ハクハ※伯（はく）具（つぶさ）ニ言ヘ三臣之不二敢ヘテ倍（そむ）カレ徳ニ※也。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　伯…人名。　　也…置き字。

ア　どうか伯よ、私が決して将軍の恩義に背かないことを詳しく説明してください。
イ　どうか伯に、私が決して将軍の恩義に背かないことを詳しく説明させてください。
ウ　伯が、私は決して将軍の恩義に背かないことを詳しく説明してくれるはずだ。
エ　伯に、私が決して将軍の恩義に背かないことを詳しく説明させてくれるはずだ。

③ 「臣請フ、入リテ与レ之同ジクセンレ命ヲ。」の解釈として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　之…この人。

ア　私が、一緒に中に入ってこの人と生死を共にする人を探そう。
イ　私は、一緒に中に入ってこの人と生死を共にすることはできない。
ウ　どうか私と一緒に中に入って、この人と生死を共にしてください。
エ　どうか私に、一緒に中に入ってこの人と生死を共にさせてください。

④「王よ、どうかこれをはかりくらべてください。」という解釈になるものとして最も適当なものを、次の中から選べ。（「はかりくらべる」＝「度」）

ア　王請フ度(はか)ラン㆑之ヲ。
イ　王請フ度レ㆑之ヲ。
ウ　王之ニ請ヘ㆑度ルコトヲ。
エ　王之ニ請ハン㆑度ルコトヲ。

⑤「庶幾息㆓兵革㆒。」をすべて平仮名で書き下した文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　ねがはくはへいかくをやめん。
イ　ねがはしくへいかくをやめんか。
ウ　こひねがはくはへいかくをやめん。
エ　こひねがはしくへいかくをやめんか。

三　その他

①　以為

(1)　**以為**（おもヘラク）〜（ト）　＝おもへラク〜ト／（〜と思う）

(2)　**以**（もつテ）**為**（なス）A（ト）　＝もつテAトなス／（Aと思う）

(3)　**以**（もつテ）A（ヲ）**為**（なス）B（ト）　＝AヲもつテBトなス／（AをB にする／と思う／と考える）

＊以〜＝〜ヲもつテ　【理由や手段を示す】

(1)　以（テス）二〜（ヲ）一。　＝〜ヲもつテス。／（〜でする。）

(2)　以（テ）二〜（ヲ）一也。　＝〜ヲもつテなり。／（〜からである。）

② 「すなはチ」の訳し方

＊(1)～(6)の読みは全て「すなはチ」

(1) **則**＝(もし～たら)

(例) 則チ践ミ二鋒（ほう）刃（じん）ヲ一、入レバ二湯火ニ一、…　〔則ち鋒刃を践み、湯火に入れば、…〕

(もし鋭い刃を踏み、熱湯や火中に入ったならば、…)

＊～バ(ハ)―則チ― … 「則」＝訳さない

(2) **即**＝(すぐに)

(例) 樹即チ応ヘテレ声ニ、…　〔樹即ち声に応へて、…〕　(木はすぐに声に反応して、…)

(3) **便**＝(すぐに・たやすく・簡単に)

(例) 便チ合セテ二財産ヲ一、…　〔便ち財産を合せて、…〕　(すぐに財産を一緒にして、…)

(4) **乃**＝(そこで・やっと・なんと)

(例) 乃チ告グレ之ニ。　〔乃ち之に告ぐ。〕　(やっとこの人に告げた。)

注　之…ここでは「この人」の意味。

(5)　**輒**＝（そのたびごとに・いつも）

（例）至リテハ二於百姓ノ租税一ニ、動モスレバ輒チ蠲（けん）免（めん）ス。〔百姓の租税に至りては、動もすれば輒ち蠲免す。〕

注　蠲免…租税を免除する。（人民の租税に至っては、とかくいつも免除する。）

(6)　**而**＝（そこで）

問五　「病児服シテレ薬ヲ、云ハバレ無シトレ効、則不如貧医。」の傍線部を現代仮名遣いで書き下しなさい。

③　**欲**

(1)　**欲**N＝N**ヲ**ほつス

(2)　**欲**V＝V**ント**ほつス

／（～したいと思う・～しようとする）

（例）欲渡。〔　　　　　　〕（渡ろうとする。）

問六　「必欲使之在尊貴之所」について、（ａ）返り点のつけ方と書き下し文、（ｂ）その解釈として最も適当なものを、次の各群の①〜⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。

（ａ）
① 必欲レ使レ之在二尊貴之一所　　必ず之を使はんと欲するは尊貴の在る所なり
② 必欲レ使三之在二尊貴之所一　　必ず之をして尊貴の所に在らしめんと欲す
③ 必欲三使之在二尊貴之所一　　必ず使ひの尊貴の所に在らんことを欲す
④ 必欲三使レ之在二尊貴一之所　　必ず之を使ひて尊貴に在らんと欲するの所なり
⑤ 必欲使三之在二尊貴一之所　　必ず欲して之をして尊貴に在らしむるの所ならん

（ｂ）
① 必ず教え子を高い地位につかせてやりたいと思う
② 必ず教え子を高官のもとに派遣したいと思う
③ 必ず教え子を皇帝の役に立つ人物にしたいと思う
④ 教え子をなんとかして出世させたいと思った結果である
⑤ 教え子に正しい教育を施してやりたいと思う理由である

④ 倒置がおこる場合

(1) 否定文中の目的語か補語が代名詞の場合

(例) 未之聞。〔未だ之を聞かず。〕〔まだこれを聞いていない。〕

不汝与。〔汝に与へず。〕〔お前に与えない。〕

(2) 「詠嘆」の「A哉、N也。」の句法

(例) 美哉、花也。〔美しきかな、花や。〕

(3) 目的語が疑問詞の場合

(例) 何ヲカ書ク。〔何をか書く。〕〔何を書くのか。〕

(4) 「以」を用いる場合

(例) 以ツテレ銭ヲ与フ。〔銭を以つて与ふ。〕〔お金を与える。〕

(5) 「之」を用いる場合

(例) 此レヲ之レ謂フ。〔此れを之れ謂ふ。〕〔これを言う。〕

★補足

一 「複数の句法に使用される漢字」

① 於・于・乎（文中）

(1) **置き字**

(2) 「　　」 V二於N一　＊N＝Vの動作主　（　　）

(3) 「　　」 A二於N一　（　　）

② 敢

(1) **敢**（あヘテ） ＝（すすんで・わざわざ・おもいきって）

(2) **安**（いづクンゾ）**敢**（あヘテ）**～**ン(ヤ) ＝（　　）

(3) **不敢～** ＝［　　］／（　　）

(4) **敢不～乎。** ＝［　　］／（　　）

③ 若・如

(1) 文頭にあって下から返らないとき「　　　」／（　　　　）

(2) 下から返るとき「比況の助動詞」ごとシ／（〜のようだ・〜と同じだ）

(3) 不レ如／弗レ若 〜ニ ＝（〜　　　）／（　　　）

莫レ如／無レ若 〜ニ ＝（〜　　　）／（　　　）

(4) 「疑問」

〈文頭〉如何・若何〜 ＝（　　　）／（　　　）

〈文末〉如何・若何。 ＝（　　　）／（〜は　　　）【　　　】

〈文末〉何如・何若。 ＝（　　　）／（〜は　　　）【　　　】

(5) 「反語」

如何・若何

〈文頭〉（　　　）／（　　　）

〈文末〉（　　　）／（　　　）

④ **能**

(1) **能**＝〔　　　　〕／（　　　　）

＊ **善**(よク)＝～することが上手だ
銭(せん)明(めい)経(けい)善(レ)詩。〔銭明経詩を善くす。〕（銭明経は詩を作ることが上手だ。）

(2) **不**(レ)**能**＝〔　　　　〕／（　　　　）

(3) **安**(いづクンゾ)**能**～(ン(ヤ))・**豈**(あニ)**能**～(ン(ヤ))／（　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

⑤ **而**

(1) 文中で読まないとき＝置き字

(2) 文頭＝読む（置き字ではない）

(3) すなはチ（そこで）

(4) なんぢ〈＝汝・女・爾・若〉／（あなた・あなたたち）

二 「基本的な漢字の読み・（意味）」

【人物・人格・位・立場など】

1 我・吾（われ）・己（おのれ）・余・予・某（ぼう）・某（それがし）（私・私たち）

2 臣（しん）（君主に対して「私」）

3 妾（しょう）（女性の「私」）

4 朕（ちん）（天子の自称）

5 寡人（かじん）・孤（こ）（諸侯〈＝天子から領地を分与された君主〉・王の自称）

6 不肖（ふしょう）（〈立派な親に似ず愚かな人の意味〉→①私 ②愚か者）

7 汝（なんぢ）・女（なんぢ）・若（なんぢ）・爾（なんぢ）・而（なんぢ）・子（し）・卿（けい）・吾子（ごし）（あなた・あなたたち）

8 君（くん）（①あなた・あなたたち ②お殿様 ③君主）

9 足下（そっか）（〈手紙文で〉あなた）

10 上（しょう）（天子）

11 相（しょう）（宰相）

12 左右（さゆう）（近臣）

13 公卿（こうけい）（高位高官）

14 大夫（たいふ）（中級の官）

15 吏（り）（下級役人）

16 庶人（しょにん）（庶民）

17 百姓（ひゃくせい）（民衆）

18 故人（こじん）（旧友）

19 知己（ちき）・知音（ちいん）（理解者・親友）

20 君子（くんし）（立派な人）↔小人（しょうじん）（つまらない人・身分の低い人）

21 賢（けん）（すぐれている人）↔不肖

22 字（あざな）（別名）

【その他】

1　城＝じょう（町）

2　為人＝ひとトなり（人柄）

3　者＝しゃ・もの・は・昔者（むかし）・今者（いま）

4　人間＝じんかん（世の中・俗世間）

5　理＝り（道理）

6　所以＝ゆゑん（原因・理由・手段・方法）

7　謂曰＝いヒテいはク

8　道＝いフ（言う）

9　対曰＝こたヘテいはク　＊対＝こたフ（目上の人にお答えする）

10　白＝まうス（申す・告げる）

11　中＝あたル

12　**竟**＝おはル

13　困＝くるシム

14　**卒**＝しゅつス（亡くなる）

15　烹＝にラル

16　愛＝をしム（惜しむ）

17　事＝つかフ（お仕えする）・ことトス（実践する）

18　作＝なス・つくル

19　就＝つク（おもむく・とりかかる）・なル（できあがる）・なス（しあげる）

20　之＝の・これ・ゆク

21　已＝すでニ・やム・のみ

22　過＝～ニよギル（～を訪問する）・すグ・あやまツ（間違える）・あやまチ

23　悪＝にくム・そしル・いづクンゾ・いづクニカ

24　且＝
- まさニ～ントす（今にも～しようとする）
- かツ（さらに・そのうえ・そもそも）
- しばらク（まあ）

25　為＝
- ～ノためニ
- ～トなル
- ～ヲなス（～を行う）
- ～トなス（～とする）
- ～ヲつくル
- ～ヲをさム（～を治める）
- たリ（断定）
- る・らる（受身）

26　与＝
- と↓「読み」の問題として一番頻出。下から返る。
- あたフ
- くみス（味方する・賛成する）
- あづかル（関係する）
- ともニス
- ともニ（一緒に）
- よリハ
- か・かな↑～与。（＝文末）

＊下から返らないときは「ためニ」。（他の読みは下から返る。「ためニ」も下から返る時もある）

27　寡＝すくなシ
28　衆＝おほシ
29　少＝わかシ（若い・年少）
30　蓋＝けだシ（たぶん・思うに）
31　凡＝およソ（そもそも）
32　夫＝そレ（そもそも）
33　抑々＝そもそも
34　数々＝しばしば（たびたび）
35　偶々＝たまたま
36　適々＝たまたま
37　終・**卒**・遂・**竟**＝つひニ
38　固＝もとヨリ（もともと・言うまでもなく）
39　素＝もとヨリ（平素から）
40　動＝ややモスレバ（とかく↑そうする傾向が強いこと）
41　毎＝～ごとニ・つねニ
42　方＝まさニ（ちょうど・これから・そこで）
43　所謂＝いはゆる（世間一般に言われる）
44　私・陰・窃＝ひそかニ

45　俄・**卒**・暴・遽＝にはかニ（急に）
46　早＝つとニ
47　嘗＝かつテ
48　忽＝たちまチ（急に）
49　徒＝たダ〜ノミ・いたづらニ
50　因＝ちなみニ・よりテ（そこで）
51　如是・如此＝かクノごとシ（このようだ）
52　是以＝ここヲもつテ（だから・こういうわけで）
53　以是＝これヲもつテ（これで）
54　於是＝ここニおいテ（そこで）
55　未幾＝いまダいくばくナラず（まもなく）
56　須臾＝しゅゆニシテ（まもなく）
57　無幾何＝いくばくモなク（まもなく）
58　無幾＝いくばくモなシ（ほんの少し）

【身分がわかる動詞】

1　対＝こたフ（**目下から目上の人に**お答えする）
2　諫む＝いさム（**目下から目上の人に**注意する）
3　崩ず＝ほうズ（**天子が**亡くなる）
4　薨ず＝こうズ（**諸侯が**亡くなる）
5　弑す＝しいス（**子・臣が親・君を**殺す）

【時間】

1　光陰＝こういん（時間）
2　期年＝きねん（丸一年）
3　四時＝しいじ・しじ（春夏秋冬）
4　一旦＝いったん（ある朝）
5　一夕＝いっせき（ある夜・ひと晩）
6　夙夜＝しゅくや（早朝から晩まで）
7　他日＝たじつ（以前のある日・将来のある日）
8　百代＝はくたい（長い時間）
9　千載＝せんざい（千年・長い年月）
10　暮年＝ぼねん（晩年）
11　天年＝てんねん（寿命・天寿）

〈Memo〉

第7講　PART1　確認問題

①　「以レ※吏為リレ師。」の書き下し文と現代語訳の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

注　吏…官吏。役人のこと。

ア　以為らく吏は師なりと。／役人を先生にしましょう。

イ　以為らく吏は師なりと。／役人が先生だからです。

ウ　吏を以て師と為さん。／役人を先生にしましょう。

エ　吏を以て師と為さん。／役人が先生だからです。

②　「乃チ薦ム二※舜(しゅん)ヲ於※天ニ一。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　舜…人名。
天…天帝。

ア　すぐに舜を天帝に推薦した。

イ　簡単に舜を天帝に推薦した。

ウ　いつも舜を天帝に推薦した。

エ　そこで舜を天帝に推薦した。

③　「側目不敢視。」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　目を側めて敢へて視ず。

イ　目を側めて敢へて視ざらんや。

ウ　目を側めずして敢へて視る。

エ　目を側めずして敢へて視んや。

④　「莫レ若二六国※従親（しやうしん）シテ以テ※擯（しりぞ）クルニレ※秦（しん）ヲ。」の傍線部の、送り仮名を含めた読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　従親…連合してともに戦う同盟を結ぶ。
　　擯…追い払う。　秦…国名。

ア　しかず　　イ　しくはなし　　ウ　ごとくあらず　　エ　およばず

⑤　「豈ニ能ク佩（お）ビン二六国ノ※相印（しやういん）ヲ一乎。」の現代語訳として最も適当なものを、次の中から選べ。

注　佩…腰につける。　相印…宰相（さいしよう）の印。

ア　どうにかして六国の宰相の印を腰につけさせることができた。
イ　どうにかして六国の宰相の印を腰につけたいものだ。
ウ　どうしても六国の宰相の印を腰につけることができないだろうか、いや、きっとできるはずだ。
エ　どうして六国の宰相の印を腰につけることができただろうか、いや、できなかっただろう。

PART2 漢詩の基礎知識

一 漢詩の基礎知識

A 「形式」

① 五言詩（一行五文字）／七言詩（一行七文字）

② **絶句（四行）**／**律詩（八行）**／古詩（それ以外）

＊「一行の字数」と「行数」から①と②を組み合わせて答える。

（例）五言絶句・七言律詩…など。

B 「押韻する字」…音読みしたときに音の響きが同じ

① 五言詩＝**偶数句の末字**

○○○○○　○○○○●
○○○○○　○○○○●

＊●＝押韻している文字

② 七言詩＝**（初句と）偶数句の末字**

○○○○○○●　○○○○○○●
○○○○○○○　○○○○○○●

C 「対句の見分け方」

奇数句・偶数句の順で**返り点の打ち方が同じ**（ただし、再読文字を含むときは除く）場合は、ほぼ対句（＊例外も多いので注意）。**品詞・文構造・意味内容ともに対称**である点がポイント。

＊律詩（八行）の場合、「**三句と四句**」と「**五句と六句**」が原則として対句。

たとえば、李白の「送友人」は「一句と二句」「五句と六句」が対句で、このように例外もあります。両方でも、どちらかでも、また、それ以外の「一句と二句」や「七句と八句」も対句になっている場合も、対句は見ればわかるはずですので、「対句の見分け方」をしっかりおさえて確認してください。

D 「段落分け」

① 四行＝一行ずつ（**起承転結**）

② 六～十行＝二行ずつ　＊律詩➡首聯（しゅれん）・頷聯（がんれん）・頸聯（けいれん）・尾聯（びれん）

③ 十二行以上＝四行ずつ

★主題は最終段落

E 「意味のまとまり」

① 五言詩＝２・３　（例）十月鷹出籠

② 七言詩＝２・２・３　（例）炎（えん）涼（りやう）昏（こん）暁（げう）苦（はなはダ）推遷（シ）

注　推遷…移り変わる。

二 次の詩を読んで、後の**問**に答えよ。

沙場征(せい)戍(じゆ)ノ客
寒苦若(い)為(かニカ)眠ル
戦袍経(ふ)二手ヲ作一
知レ落ツルヲ(ラン)二阿誰(たれ)ノ辺一ニカ
蓄ヘテレ意ヲ多ク添ヘレ線ヲ
含ンデレ情ヲ更ニ着クレ綿ヲ
今生已ニ過グル也
結ビ二取ラン後身ノ縁ヲ一

問一　この詩の形式を答えなさい。

問二　韻字をすべて抜き出しなさい。

問三　対句が何組用いられているか、答えなさい。

三　詩を読んで、次の**問**に答えよ。

我来リテ㆓揚子江頭ニ㆒望メバ
一片白雲数点ノ□ノ
安得㆜置キ㆓身ヲ天柱頂ニ㆒
倒（さかしまニ）看ルヲ㆛日月ノ走ルヲ㆚人間ヲ㆙

注　揚子江…長江の別名。
　　天柱…神話の中に出てくる、天を支えているという柱。

問一　この詩の形式を答えよ。

問二　傍線部「一片白雲数点□」について、（a）空欄に入る語と、（b）この句全体の解釈との組み合わせとして最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　（a）淡――（b）白い雲の切れ間から数本の淡い光が差し込んでいる。
イ　（a）楼――（b）空の片隅に浮く白い雲と幾つかの建物が見えている。
ウ　（a）雨――（b）白い雲が空一面に広がり雨がぽつぽつと降り始める。
エ　（a）山――（b）ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。
オ　（a）鳥――（b）空には一つの白い雲が漂い数羽の鳥が飛んでいる。

第7講　PART2　確認問題

① 詩の形式として最も適当なものを、次の中から選べ。

春眠不レ覚レ暁
処処聞二啼鳥一
夜来風雨声
花落知多少

ア　五言絶句　　イ　五言律詩　　ウ　七言絶句　　エ　七言律詩

② 詩の空欄に入る語として最も適当なものを、次の中から選べ。

涼州詞　王翰（わうかん）

葡萄美酒夜光杯
欲レ飲琵琶馬上催
酔臥二沙場一君莫レ笑
古来征戦幾人□

ア　山　　イ　回　　ウ　上　　エ　狐

③　次の詩の中で、対句になっている句の組み合わせとして適当でないものを、次の中から選べ。

春望　杜甫(とほ)

第1句　国破レテ山河在リ
第2句　城春ニシテ草木深シ
第3句　感ジテハレ時ニ花ニモ濺(そそ)ギレ涙ヲ
第4句　恨ンデハレ別レヲ鳥ニモ驚カスレ心ヲ
第5句　烽火連ナリ二三(さん)月(げつ)ニ一
第6句　家書抵(あた)ル二万金ニ一
第7句　白頭掻ケバ更ニ短ク
第8句　渾(すべ)テ欲スレ不ランレ勝(た)ヘレ簪(しん)ニ

ア　第1句と第2句　　イ　第3句と第4句　　ウ　第5句と第6句　　エ　第7句と第8句

④　詩の主題はどの句に現れているか。最も適当なものを、次の中から選べ。

贈汪倫　李白

第１句　李白乗舟将欲行　（私が舟に乗って、ちょうど出発しようとしているとき、）
第２句　忽聞岸上踏歌声　（突然岸辺の方で人々が足を踏みならしながら歌う声が聞こえる。）
第３句　桃花潭水深千尺　（桃花潭の水は、深さが千尺もあるということだが、）
第４句　不及汪倫送我情　（汪倫が私を見送ってくれるこの情愛の深さには、とても及ばないだろう。）

注　汪倫…人名。李白が桃花潭を訪れたときにもてなしてくれた人物。
踏歌…人々が足を踏みならしながら歌をうたうもの。
桃花潭…地名。

ア　第１句　　イ　第２句　　ウ　第３句　　エ　第４句

⑤　傍線部の、意味のまとまりの区切りとして最も適当なものを、次の中から選べ。

別(わかル)二董大(とうだいニ)一　　高適(かうせき)

千里ノ黄雲白日曛(※くらク)

北風吹(イテ)レ雁(かりヲ)雪紛紛

莫(カレ)レ愁(うれフル)前路無(キ)二知己(ヲ)一

天下誰人(カ)不(ラン)レ識(しラ)レ君(ヲ)

注　曛…薄暗くくすんでいる。

ア　千里黄／雲白日曛

イ　千里黄／雲白／日曛

ウ　千里／黄雲／白日曛

エ　千里／黄雲白／日曛

四　漢文読解法

【手順】

① 設問チェック
　＊ 句法・語法で解けるもの＝即解答
　＊ 絞れる選択肢は絞っておく
　＊ その他は何をきかれているかを確認

② 注マーク確認

③ 前書きの有無確認→あれば必ずきちんと読むこと

（④ 出典確認）

【設問別解法】

〈単語の意味〉

・仲間外れの選択肢が一つだけ＝それが解答

〈例題一〉 次の中から「過」の意味が異なるものを選べ。

ア　過度　　イ　過酷　　ウ　過失　　エ　過剰　　オ　超過

・二字熟語にして意味を類推する

〈例題二〉 次の傍線部のここでの意味と同様の意味を表す熟語として最も適当なものを選べ。

好(二)行(ミテ)幸(一)(ヲ)不(レ)<u>息</u>、人(ノ)所(レ)(ナリ)不(レ)(ル)堪(ヘ)。

ア　悽息　　イ　利息　　ウ　嘆息　　エ　終息

〈書き下し文〉

・基本構造＝語順確認→送り仮名確認
・重要句法確認
・傍線部の前後に**対句・対文**がないか確認
・訳してみて意味不明な場合＝誤り
・選んだ訳を本文中にあてはめ、文脈確認

〈理由〉

・傍線部自体を正確に訳す
　➡**傍線部を本文で確認**＝設問箇所では白文でも、本文中には返り点や送り仮名がついていることもある（左記の解釈・部分説明も同様）。
・傍線部の前後に注目

〈解釈・部分説明〉

・傍線部を含む一文全体を読む
・指示語があれば指示内容を明確にする
・傍線部前後の文脈を確認

〈主張・主題〉

・**結末部**

五　次の詩を読んで、次の**問**に答えよ。（設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。）

放ツレ鷹（たか）ヲ　　白（はく）居（きょ）易（い）

① 十月鷹出デレ籠（かご）ヲ、　② 草枯レテ雉（ち）兎（と）肥ユ。

③ 下リテレ韝（こう）ヨリ（注1）随（したが）ヒ二指（注2）顧ニ一、　④ 百擲（てき）シテ（注3）無シ二一 [A] 一。

⑤ 鷹ノ翅（つばさ）疾（はや）キコト如クレ風ノ、　⑥ 鷹ノ爪（つめ）利（するど）キコト如シレ錐（きり）ノ。

⑦ B 本為（なり）二鳥ノ所トレ設クル、　⑧ 今為ル二人ノ所トレ資スル。

⑨ C 孰能使二之然一、　⑩ 有リ二術ノ甚ダ易（やす）キレ知リ。

⑪ D 取リ二其ノ向背ノ性ヲ一、　⑫ 制スルハ在リ二飢飽ノ時ニ一。

⑬ 不㆑可㆑使㆓長飽㆒、　⑭ 不㆑可㆑使㆓長飢㆒。

⑮ 飢則力不㆑足、　⑯ 飽則背㆑人飛。

⑰ 乗㆑飢縦㆓搏撃㆒、（注4）　⑱ 未㆑飽須㆓縶維㆒。（注5）

⑲ 所以爪翅功、　⑳ 而人坐収㆑之。

㉑ 聖明馭㆓英雄㆒、　㉒ 其術亦如㆑斯。

㉓ E<u>鄙語不㆑可㆑棄</u>、　㉔ 吾聞㆓諸猟師㆒。

（『白香山詩集』による）

（注）1 韝――鷹を止まらせるために腕につける革具。
2 指顧――指さし顧みること。指示。
3 擲――投げ放つ。
4 搏撃――襲いかかる。
5 縶維――つなぐ。

問一 空欄 **A** に入る語として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア 中　イ 遺　ウ 敗　エ 至　オ 失

問二　この詩の中には対句が用いられている。次の組み合わせの中から双方とも対句であるものを選ぶとすれば、どれが最も適当か。次の中から一つ選べ。

ア　①②と⑪⑫　　イ　⑤⑥と⑮⑯　　ウ　⑦⑧と⑬⑭
エ　⑬⑭と⑮⑯　　オ　⑰⑱と㉑㉒

問三　傍線部Ｂ「本為二鳥所一レ設、今為二人所一レ資」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　鷹は、もともと獲物を捕る才能を備えており、今も人のために役立っている。
イ　小鳥は、もともと鷹が食料としていたものであるが、今では人が食料としている。
ウ　雉(きじ)や兎(うさぎ)は、もともと鷹のために天が授けたものであるが、今は人の食料となっている。
エ　翼や爪は、もともと鷹のためにつけられているものなのに、今は人に利用されている。
オ　鷹狩りは、もともと鷹の訓練のために始められたものであるが、今では人の娯楽となっている。

問四　傍線部Ｃ「孰能使二之然一」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　孰(たれ)ぞ能(よ)く之を然らしめん
イ　孰(たれ)の能(のう)か之(ゆ)きて然らしめん
ウ　孰(たれ)か能(よ)く之をして然らしめん
エ　孰(いづく)んぞ能(よ)く之を然りとせしめん
オ　孰(いづ)れの能(のう)か之をして然らしめん

問五　傍線部Ｄ「取㆓其向背性㆒」の意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　獲物が鷹を恐れて背を向ける習性を利用する。
イ　鷹が何を好んで何を嫌うのかをよく見て取る。
ウ　鷹が獲物の背後に向かう性質をよく読み取る。
エ　鷹が従順であったり反抗したりする性質を利用する。
オ　鷹狩りの際に方角や位置に利があるかないかを読み取る。

問六　傍線部Ｅ「鄙語不㆑可㆑棄」とあるが、なぜ作者はこのように言っているのか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

ア　単に鷹狩りの話ではあるが、弱肉強食の人間界を風刺しているから。
イ　無味乾燥な政治の話ではあるが、純朴な猟師に聞かせても納得したから。
ウ　一介の猟師から聞いた話ではあるが、実に動物の習性を研究し尽くしているから。
エ　私のような門外漢の観察記ではあるが、猟師に聞いても間違っていなかったから。
オ　猟師から耳にした卑俗な話ではあるが、名君と臣下との関係を示唆しているから。

第8講　確認問題

①　次の詩を読んで、後の問に答えよ。

＊1江楼夕望招クレ客ヲ

第1句　海天東望夕＊2茫（ばう）茫（ばう）

第2句　山勢川形闊復長

第3句　灯火万家城ノ四畔

第4句　星河一道水ノ中央

第5句　風ハ吹クニ古木ヲ一晴天ノ雨

第6句　月ハ照ラスニ平沙ヲ一夏ノ夜ノ霜

第7句　＊3能（よく）＊4就（つ）キテ二江楼ニ一銷（け）スヤレ暑ヲ否（いな）ヤ

第8句　＊5比スレバ二君ガ＊6茅（ばう）舎（しゃ）ニ一校（やや）清涼ナラン

（白居易『白氏文集』）

[注]

＊1　江楼＝江（かわ）のほとりのたかどの。

＊2　茫茫＝ひろびろとしている。

＊3　能…否＝…することができますか？

＊4　就＝（場所）で。

＊5　比…校…＝…にくらべて少しは…。

＊6　茅舎＝茅葺（かやぶ）きの家。

この詩には二組の対句がある。その組み合わせとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　第１句と第２句　　第３句と第４句
イ　第２句と第４句　　第５句と第６句
ウ　第３句と第４句　　第５句と第６句
エ　第４句と第５句　　第６句と第７句

② 傍線部について、空欄に入る語として最も適当なものを、次の中から選べ。

銅雀台(どうじゃくだい)ノ址(あと)頽(くづ)レテ無レシ遺(のこス)　何ゾ乃(すなは)チ剰瓦(じょうが)ノ多キコト如レクナラン斯クノ

文士例(おほむね)有リ二好レムノ奇ヲ癖一　心ニ知ルモ二其ノ妄ナルヲ一姑(しばら)クラ自□

ア　愉　　イ　娯　　ウ　詐　　エ　欺　　オ　虚

③ 詩を読んで、次の問に答えよ。

春江　（唐）白(はく)居(きよ)易(い)

① (注1)炎(えん)涼(りやう)昏(こん)暁(げう)苦(はなは)ダ推遷(注2)シ

② 不レ覚エ忠(注3)州ニ已(すで)ニ二年

③ (注4)閉ザシテレ閣ヲ只(た)ダ聴ク朝暮(注5)ノ鼓(つづみ)

④ 上楼空望往来船

⑤ 鶯(あう)声(せい)ニ誘(いう)引(いん)セラレテ来タリ二花下ニ一

⑥ 草色ニ勾(こう)留(りう)セラレテ坐ス二水辺ニ一

⑦ 唯有春江看未厭

⑧ 縈(めぐ)リレ砂ヲ遶(めぐ)リテレ石ヲ緑(注6)潺(せん)湲(ゑん)タリ

（『白氏文集』巻十八による）

（注）
1　炎涼昏暁――暑さと寒さ、夜と朝。　2　推遷――移り変わる。
3　忠州――今の四川省忠県。作者はここに左遷され、二年間の役人生活を送った。
4　閉ㇾ閣――建物にとじこもること。　5　朝暮鼓――朝夕の時刻を知らせる太鼓の音。
6　潺湲――水のさらさら流れるさま。

三、四句が対句になっていることに留意しつつ、四句目の読み方として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　楼に上りて空しく望む往来の船
イ　楼に上りて空望するや往来の船
ウ　楼を上りて空より望めば往来の船
エ　楼を上りて空しく望めば船往来す
オ　楼に上りて空より望めば船往来す

〈Memo〉

一 次の文章を読んで、後の問題に答えなさい。

子曰ク、商(しょう)也(や)好ミテ[A]与二賢(まさ)ルレ己ニ者一処(を)リ、賜(し)也好ミテ与二[B]不若己者一処ル。不レ知ラ二其ノ子ヲ一[C]視二其ノ父ヲ一、不レ知ラ二其ノ人ヲ一視二其ノ友ヲ一、不レ知ラ二其ノ君ヲ一[D]視其所使、不レ知ラ二其ノ地ヲ一視ル二其ノ草木ヲ一。故ニ曰ク、与二善人一居ルハ、如シレ入ルガ二芝(し)蘭(らん)之室ニ一。久シクシテ而不レ聞カ二其ノ香ヲ一。即チ与レ之化セリ矣。与二不善人一居ルハ、如シレ入ルガ二鮑(ほう)魚(ぎょ)之肆(し)ニ一。久シクシテ而不レ聞カ二其ノ臭(しゅう)ヲ一。[E]亦与レ之化セリト矣。

（『孔子家語』による）

（注）子＝孔子。　商＝孔子の門人、子夏の名。　賜＝孔子の門人、子貢の名。
芝蘭＝霊芝と蘭で、いずれも香りの高い植物。　鮑魚＝魚の干物。　肆＝店。

問一 傍線部A「与」、C「視」、E「亦」の訓読みを、平がなの現代かなづかいで書け。

A＝

C＝

E＝

問二　傍線部B「不若己者」の書き下し文として最も適切なものを、次の1～4の中から一つ選べ。

1　己より若(わか)からざる者
2　己の若(ごと)くせざる者
3　若(も)しくは己ならざる者
4　己に若(し)かざる者

問三　傍線部D「視其所使」に、返り点をつけなさい（送り仮名はつけないこと）。

視　其　所　使

問四　本文の内容と最もよく合致するものを、次の1～4の中から一つ選べ。

1　商は自分より優れた者と交遊したため、彼らと同等になろうと強い向上心をもって努力した。
2　賜は自分より年長の者との交遊を好んだため、落ち着きがあり、風格のある人物になった。
3　優れた人たちと一緒にいると、ひとりでにその人たちに影響され、優れた人物になる。
4　よくない人たちと一緒にいると、彼らを反面教師とするために、行いを慎むようになる。

二　次の文章は『西京雑記』の一節である。これを読んで、問いに答えよ。ただし、設問の都合で返り点・送りがなを省略したところがある。

婁（ろう）敬（けい）始メテ[1]因リテ二虞（ぐ）将軍ニ一[2]請ヒテ見（まみ）エントスルニ二高祖ニ一、衣（き）二旃（せん）衣ヲ一、披（き）ル二羊（やう）裘（きう）ヲ一。虞将軍脱ギテ二其（そ）ノ身（しん）上（じやう）ノ衣服ヲ一以テ衣（き）シメントスレ之ニ。敬曰ハク、[3]敬本衣帛、則衣帛見。敬本衣旃、則衣旃見。今捨テテ二旃褐ヲ一、仮（か）ラバ二鮮華ヲ一、是矯（いつは）ルレ常ヲ也ト。[4]不敢脱羊裘、而衣テ二旃衣ヲ一以テ見ユ二高祖ニ一。

（注）
○婁敬――斉の人で、兵卒の出身だったが、高祖に都を長安にすべきと最初に進言した功績により、後に高祖と同じ劉姓を賜った。
○虞将軍――高祖の部下。
○高祖――前漢の初代皇帝、劉邦のことをいう。
○旃衣――粗末な毛織物の上着。
○羊裘――羊の毛皮でつくった衣類。
○帛――絹織物。
○旃褐――粗末な衣類のこと。
○鮮華――華やかな衣類のこと。

問一　傍線部１「因」と同じ意味をもつ字を次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　依　②　原　③　以　④　及　⑤　本

問二　傍線部２「請」と同じ意味で「請」の字が用いられていない熟語を次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　請願　②　請雨　③　請負　④　要請　⑤　請求

問三　傍線部３「敬本衣帛、則衣帛見」の書き下し文の読みとして最も適切なものを次の①～⑤の中から一つ選べ。

①　けいのもとははくをき、したがひてはくをきるをあらはす。
②　けいもとよりはくをきれば、すなはちはくをきてまみえん。
③　もとをうやまひてはくをきれば、すなはちはくをきられん。
④　けいもとのころもははくたれども、のりのころもははくとみる。
⑤　うやまひてはくをきるをほんとし、すなはちはくをきるにまみゆ。

問四　傍線部４「不敢脱羊裘」は「あへてやうきうをぬがずして」と読む。

（１）この読みに従って、返り点のみをつけよ。

不　敢　脱　羊　裘

（２）このような行動をとった理由を説明せよ。

三　次の文章を読んで、問いに答えよ。ただし、設問の都合上、訓点を省略した部分がある。

晋ノ向靖字ハ奉仁、河内ノ人也。在リシトキ二呉興郡ニ一喪(うしな)フ二数歳ノ女ヲ一。女始メ病ミシ時、弄(もてあそ)ブニ二小刀子ヲ一、母奪ヒ取ラントスレドモ不レ与ヘ、傷ツク二母ノ手ヲ一。喪後一年、母又産ム二一女ヲ一。女年四歳ノトキ、謂レヒテ母ニ曰ハク、「前時ノ刀子ハ①何在リヤト。」母曰ハク、「無キ也ト。」女曰ハク、「昔争ヒ二刀子ヲ一、故ニ傷ツク二母ノ手ヲ一。云-何(いかん)ゾ無キ耶ト。」母甚ダ驚キ怪シミ、具(つぶさ)ニ以テ告レグ靖ニ。靖曰ハク、「先ノ刀子ハ猶ホ在リヤ不ト。」母曰ハク、「②痛-念シ二前女ヲ一、故ニ不レ録セ之ヲ。」靖曰ハク、「③可更覔数箇刀子、合置一処、令女自択。」女見テ大イニ喜ビ、即チ取リテ二先ノ者ヲ一曰ハク、「此レ是レ児ノ許(もの)ナリト。」父母大小乃チ④知ル二前女ハ審(まこと)ニ其ノ先身ナルヲ一。

（『冥祥記』）

（注）　向靖＝人名。　河内＝地名。
　　　呉興郡＝地名。　刀子＝小刀(こがたな)。

問一　傍線①の「何」の読み方を、送りがなも含めてひらがなで書け（現代仮名遣いでよい）。

問二　傍線②の「痛念前女、故不録之」の意味として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　死んだ娘の物を勝手に使っては申し訳ないと思い、使っていないのです
2　死んだ娘を悲しませたことが悔やまれるために、残していないのです
3　死んだ娘のことを思い出すのがとてもつらいので、使っていないのです
4　死んだ娘のことを悔やんでもしかたがないので、残していないのです
5　死んだ娘に手を傷つけられたことが許せないので、使っていないのです
6　死んだ娘のつらい気持ちを思うといたたまれず、残していないのです

問三　傍線③の「可更覓数箇刀子、合置一処、令女自択」の書き下し文として、最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　更に数箇の刀子の、合せて一処に置き、女をして自ら択(えら)ばしむるを覓(もと)むべし
2　更に数箇の刀子を覓むべくんば、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしめよ
3　更に数箇の刀子を、合せて一処に置くを覓め、女をして自ら択ばしむべし
4　更に覓むべき数箇の刀子を、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしめよ
5　更に数箇の刀子を覓め、合せて一処に置き、女をして自ら択ばしむべし
6　更に数箇の刀子を覓め、合せて一処に置くべくんば、女をして自ら択ばしめよ

問四　傍線④に「知前女審其先身」とあるが、その理由として最も適当と思われるものを次の中から選べ。

1　死んだ娘が、多くの小刀の中から自分にとって最も使いやすい小刀を選んだから。
2　死んだ娘ととてもよく似た口ぶりで、選んだ小刀が自分の物だと言い張ったから。
3　死んだ娘と同じ年令になった時に、母の使う小刀に興味を示すようになったから。
4　死んだ娘と顔がそっくりなうえに、小刀で遊ぶというところもよく似ていたから。
5　死んだ娘がかつてそうしたように、小刀を母親から無理に奪い取ろうとしたから。
6　死んだ娘の弄んだ小刀を知るはずがないのに、多くの小刀の中から見分けたから。

第９講　確認問題

① 「隋田・楊与二鄭法士一倶以レ能レ画名。」の傍線部の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

注　田・楊・鄭法士…隋代の画家。

ア　あづかりて
イ　より
ウ　くみして
エ　と
オ　あたへて

② 「二三子不如妾知之也」の解釈として、最も適切なものを次の中から選べ。

ア　数人の門人は、誄の書き方を私よりよく知っています。
イ　夫のことは、私の方があなたたちよりよく知っています。
ウ　数人の門人は、徳について、私と同様よくわかっていません。

③ 「易レ地 a 皆然。」の空欄ａに入れる最適な語を、次の中から選べ。

ア　而　　イ　当　　ウ　則　　エ　於

〈Memo〉

第10講 実践練習(2)

一 文章を読んで、次の問いに答えよ。ただし、出題の都合上、返り点・送り仮名を省略した部分がある。

漢董永、千乗人。少偏孤、与父居。肆力田畝、鹿車載自随。父亡、無以葬、乃自売為奴、以供喪事。主人知其賢、与銭一万、遣之。永行三年喪畢、(1)欲還主人、供其奴職。道逢一婦人。曰、「願為子妻。」遂与之倶。主人謂永曰、「以銭与君矣。」永曰、「蒙君之恵、父喪収蔵。永雖小人、(2)必欲服勤致力、以報厚徳。」主曰、「婦人何能。」永曰、「能織。」主曰、「必爾者、但(3)令君婦為我織縑百疋。」於是永妻為主人家織、十日而畢。女出門、謂永曰、「我、天之織女也。縁君(4)至孝、天帝令我助君償債耳。」語畢、凌空而去、不知所在。

（『捜神記』による）

＊千乗―地名。
＊偏孤―片親のみ（この場合は母親がいないこと）。
＊鹿車―小さい車。
＊収蔵―ここでは、埋葬が完了するの意。
＊疋―織物を数える単位。

問一　傍線部（1）「欲還主人、供其奴職」を、すべて平仮名を用いて読み下しなさい。

問二　傍線部（2）は「勤めに服し力を致し、以て厚徳に報いんと欲すと」と読みます。これに従って返り点をつけなさい。

欲服勤致力、以報厚徳。

問三　傍線部（3）「令君婦為我織縑百疋」を現代語訳しなさい。

問四　傍線部（4）「至孝」の具体的内容を、本文に即して説明しなさい。

二

文章を読んで、次の問いに答えよ。ただし、問いの都合で返り点・送りがなを省いた部分がある。

衛ノ霊公之時、蘧(きよ)伯(はく)玉(ぎよく)賢ナルモ而不レ用ヒラレ、迷(び)子(し)瑕(か)不肖ナルモ而任ズレ事ニ。史(し)鰌(しう)(a)患之、(1)数言フモ二蘧伯玉ノ賢ヲ一而(b)不レ聴。病ミテ(c)且死、(2)謂二其ノ子ニ一曰ク、我即(も)シ死セバ、治二メヨ喪ヲ於北堂ニ一。吾生キテ(x)不能進蘧伯玉而退迷子瑕。是レ不ル能ハ正レス君ヲ者ニシテ、死スルモ不レ当ニ成レ礼ヲ。而シテ置二カバ屍(しかばね)ヲ於北堂ニ一、於レテ我ニ足レリ矣。霊公往キテ弔(とむら)ヒ、問二フ其ノ(y)故ヲ一。其ノ子以二テ(z)父ノ言ヲ一(d)聞。霊公造然トシテ失ヒテレ容ヲ曰ク、吾失ヘリト矣。(e)立召二シテ蘧伯玉ヲ一而貴ビレ之ヲ、召二シテ迷子瑕ヲ一而退ケ、徙(うつ)二シ喪ヲ於堂ニ一、成シテレ礼ヲ而後ニ去ル。衛国以テ治マルハ、史鰌之力也。(3)夫生キテハ進メテレ賢ヲ而退ケ二不肖ヲ一、死シテ且未ダレ止マ、又以テレ[I]ヲ諫(いさ)ム、可シレ謂フ二忠ニシテ不トレ衰ヘ一矣。

（『大戴礼記』）

（注）
○衛霊公…人名。
○蘧伯玉…人名。
○迷子瑕…人名。
○不肖…能力が劣る。
○史鰌…人名。
○治喪於北堂…北堂で葬儀を行う異例の方法で、死者に罪があることを示す。
○成礼…礼にかなった立派な葬儀を行う。
○造然失容…驚いて顔色を変える。
○諫…忠告する。

問一　波線部(1)〜(3)の送りがなを含めた読み方として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

(1)　数
ア　ますます　イ　しばしば　ウ　いよいよ
エ　たまたま　オ　こもごも

(2)　謂
ア　こたへて　イ　いひて　ウ　およびて
エ　おいて　オ　もとめて

(3)　夫
ア　あに　イ　けだし　ウ　まことに
エ　ただ　オ　それ

問二　傍線部(a)・(b)・(d)・(e)の意味として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

(a)　患
ア　思い切って　イ　よく考えて　ウ　憂慮して
エ　災害に遭って　オ　病気になって

(b)　不聴
ア　許可してもらえなかった　イ　よく聞き取れなかった　ウ　命令しなかった
エ　深くは知らなかった　オ　用意しなかった

(d)　聞
ア　評判が高かった　イ　申し上げた　ウ　聞きつけて来た
エ　望みを述べた　オ　立ち去っていった

(e) 立

ア すぐさま イ 即位して ウ しっかりして
エ 起立させて オ 叱りつけて

問三 傍線部(c)の A 読み方と B 解釈として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

A 読み方

ア まさにしせんとし
イ まさにしすべくして
ウ よろしくしすべくして
エ すべからくしすべくして
オ なんぞしせんとし

B 解釈

ア 少しの間、死んだようになって
イ 死んだ方がましだと思って
ウ 今や死にそうになって
エ 必ず殺されると思って
オ それでも生きたいと望んで

問四　二重傍線部(x)につける　A　返り点と　B　解釈として、最もふさわしいものを次の中からそれぞれ選べ。

A　返り点

ア　不レ能レ進二蘧伯玉一而退二迷子瑕一
イ　不レ能レ進三蘧伯玉而退二迷子瑕一
ウ　不レ能レ進蘧伯玉而退二迷子瑕一
エ　不レ能下進二蘧伯玉一而退中迷子瑕上
オ　不レ能下進二蘧伯玉而退一迷子瑕上

B　解釈

ア　蘧伯玉を高位に進められなかったし、迷子瑕を退けることもできなかった。
イ　蘧伯玉を推薦することはできたが、迷子瑕は退任させられなかった。
ウ　蘧伯玉を前進させることはできなかったが、迷子瑕を追放できた。
エ　蘧伯玉を有能な人材とは思わなかったし、迷子瑕も辞めさせるほどではなかった。
オ　蘧伯玉を進ませてはみたが、迷子瑕を帰らせることはできなかった。

問五　空欄Ⅰに入る語として、最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　病　　イ　子　　ウ　屍　　エ　国　　オ　君

問六　本文の内容と合致するものを、次の中から二つ選べ。

ア　霊公は、史鰌が自分の死までも利用して、君主である自分を戒めようとした行動によって、人事の非を覚った。
イ　蘧伯玉は、霊公に対して何度も進言し、息子までも使って訴えたが、結局二人とも追放された。
ウ　史鰌は、君主を正せなかった者は、まともな葬儀を行う資格はないと考え、自分の葬儀を異例な体裁で行わせた。
エ　蘧伯玉の息子は、父が無念の死を遂げたことを、葬式を行わないことで広く衛国の民衆に知らせようとした。
オ　迷子瑕は、出世を競っていた史鰌が亡くなって、その恨みを晴らすために葬儀を行えないよう、霊公に進言した。
カ　蘧伯玉と迷子瑕は、史鰌の思い切った奇策によって、そろって衛国を支える地位に就くことができた。
キ　史鰌の突然の死によって、その息子がいかに親不孝であったかが、霊公の目の前で暴かれることになった。

問七　二重傍線部(y)で史鰌が死体を北堂に置かせた理由として、最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　賢而不用　　イ　不肖而任事　　ウ　病且死　　エ　不能正君　　オ　霊公往弔

問八　二重傍線部(z)「父言」の終わりはどこか。最もふさわしいものを次の中から選べ。

ア　治喪於北堂　　イ　退迷子瑕　　ウ　不当成礼　　エ　於我足矣　　オ　問其故

三　次の文章は『後漢書』「陳寔伝」の一節である。本文と語釈をよく読んで、以下の各問に答えよ。ただし、設問の都合上、返り点や送り仮名を省いた部分がある。

時歳荒民倹。有盗夜入其室、止於梁上。寔陰見、乃起、自整払、呼命子孫、正色訓之曰、「夫人不可不自勉。不善之人、未必本悪。習以性成、①遂至於此。梁上君子者是矣。」盗大驚、自投於地、稽顙帰罪。寔徐譬之曰、「視君状貌、不似悪人。宜深剋己反善。然此当由貧困。」②令遺絹二匹。自是一県無（③）盗窃。

【語釈】○（陳）寔＝後漢の人。その高潔な行いは人民の模範となった。　○整払＝身なりを整える。　○子孫＝子と孫。
○性成＝（その人の）性質になる。　○稽顙＝ぬかずく。　○帰罪＝自分の罪を認める。　○匹＝反物を数える単位。

問一　傍線部①「遂至於此」はどのようなことを意味するか。指示代名詞の指す内容が分かるように説明しなさい。

問二　傍線部②「令ムレ遺（おく）ラ二絹二匹ヲ一」ということがなされたのは何故か、理由を説明しなさい。

問三　（　③　）に補うのに適当な語を次の中から選べ。

a　復　　b　不　　c　故　　d　勉　　e　常

問四　前の話から「梁上の君子」という成語が生まれたが、この成語の意味を表わす言葉を文中から選んで書け。

〈Memo〉

第10講　確認問題

① 「<u>令子犯罪</u>、なほ妄に在り」の傍線部の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　子に罪を犯さしめる
イ　子に罪を犯さしめんとす
ウ　子をして罪を犯さしむる
エ　子に令して罪を犯さんとす

② 「夫以二無知之禽獣一、猶且変レ勇為レ怯、況人之霊」の趣旨として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　禽獣は無知なものだが、霊長類である人間ならば、なおさら勇敢さが変じて卑怯になるなどということはないと夫は言ったのである。
イ　そもそも、知恵のない禽獣でさえ、勇猛だったものが臆病になることがあるのだから、ましてや知恵をもつ人間ならなおさらである。
ウ　夫と知恵のない禽獣とを比べるということは、勇敢と卑怯とを比べるようなもので、霊妙な人間というものがわかっていないのである。
エ　あの無知の禽獣ですら、しばらくは臆病から勇猛へと性格が変わったのだから、人の霊魂も少しの間なら変化することができるのである。
オ　それゆえ、士人は無知の禽獣の性格が勇猛でなくなっても大切にしたのだから、優れた人間ならなおさら大切にするであろう。

③「吾将迎之」の書き下し文と解釈の組合せとして、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　吾、之を将迎せんと
　　私が彼を送迎するつもりだ、と。

イ　吾、将(ひき)ゐて之を迎へんと
　　私が彼を連れて出迎えよう、と。

ウ　吾、将に之を迎へんとすと
　　私が彼を迎えるつもりだ、と。

④「自㆑外視レバ㆑之ヲ、六箇悉ク見ユ。」の傍線部と同じ用法のものはどれか。次の中から最も適当なものを選べ（設問の関係で「自」には、返り点・送り仮名を付していない）。

ア　吾自衛帰㆑魯ニ。

イ　非㆑人ヲ自是トス。

ウ　君自行ヘ㆑之ヲ。

第11講 実践練習(3)

一 文章を読んで、次の問いに答えよ。ただし、設問の都合上、返り点・送り仮名を省いた部分がある。

子*路為蒲*宰。為水備、与其民修溝*洫。以民之労煩苦也、人与之一*箪食一*壺漿。①孔子聞之、使子*貢止之。②子路忿然不説、往見X孔子曰、由也、③以暴雨将至、恐有水災。故与民修溝洫、以備之。而民多乏餓者。A是以箪食壺漿而与之。B夫子使賜止之、是夫子止由之行仁也。夫子以仁教、而禁其行、由不受也。孔子曰、汝以民為餓也、④何不白於君発倉廩、以賑*之。而C私以爾食饋之、是汝明君之無恵、而見Y己之徳美。汝速已、則可。不、則汝之見Z罪必矣。

（『孔子家語』より）

【注】
＊子路　孔子の門人。名は由。
＊蒲宰　衛の国の蒲の長官。蒲は町の名。
＊溝洫　田畑の間に掘った溝。
＊一簞食　竹で作った器に盛った飯。
＊一壺漿　壺に入れた飲み物。
＊子貢　孔子の門人。名は賜。
＊賑　救う。

問一　波線部Ａ「是以」Ｂ「夫子」Ｃ「私」の読み方を、送り仮名も含めてひらがなで記せ。

Ａ＝　　Ｂ＝　　Ｃ＝

問二　二重傍線部Ｘ～Ｚの「見」と同じ意味で用いられている「見」を含む文を次の中からそれぞれ一つ選べ。

ア　信而見レ疑、忠而被レ謗。
イ　心不レ在レ焉、視而不レ見、聴而不レ聞。
ウ　未二嘗見レ歯而笑一也。
エ　彗星見二于東方一。
オ　孟子見二梁恵王一。

Ｘ＝　　Ｙ＝　　Ｚ＝

問三　傍線部①「孔子聞之、使子貢止之」とあるが、孔子がこのような処置をした理由として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　溝洫の管理は専門家集団に任せるべきであるから。
イ　子路が主君によって処罰されることが予想されたから。
ウ　安易に民に恩恵を施すと、民の自立する心が育たないから。
エ　民と一緒に食事をすることは礼の規定に違反するから。
オ　間もなく激しい雨が降ってくることが予想され、危険だから。

問四　傍線部②「子路忿然不説」とあるが、子路はなぜそのような感情をいだいたのか。その理由を、次の形式に従って記せ。

子路は［　　　　　　　　　　　　］と考えたから。

問五　傍線部③「以暴雨将至」の書き下し文を記せ。

問六　傍線部④「何不白於君発倉廩、以賑之」の意味として最も適切なものを次の中から選べ。

ア　民を救済するためには、主君の慈愛に何とかしてすがって穀物倉を開く必要がある。
イ　穀物倉を開いて民を救済するため、どうやって主君に身の潔白を示せばよいのか。
ウ　なぜ主君のもとに役人を派遣して穀物倉を開けてもらい、民を救済しないのか。
エ　民を救済するためには、どこの穀物倉を開くか主君に建言する必要がある。
オ　どうして主君に事情を申し上げて穀物倉を開き、民を救済しないのか。

二　文章を読み、次の設問に答えよ。ただし、設問の都合で返り点・送り仮名を省いた部分がある。

季(注1)文子ⓐ相タルモ二宣(注2)成一ニ、無ク二衣(きル)レ帛(きぬヲ)之妾一、無シ二食(はム)レ粟(ぞくヲ)(注3)之馬一。仲(注4)孫它諫(いさメテ)曰ハク、「子為リテ二魯ノ上卿一ト、ⓑ相タリ二二君一ニ矣。妾ハ不レ衣レ帛ヲ、馬ハ不レ食マレ粟ヲ。人其レ以テレⓒ子ヲ為シレ愛(をしムト)、且ツ不ルレ華ニセレ国ヲ乎ト。」文子曰ハク、「吾ⓓモ亦願ヘリレ之ヲ。然レドモ吾観ルニ二国人ヲ一、其ノ父兄之食ヒテレ粗ヲ而衣ルレ悪ヲ者ⓔ猶多シ矣。吾是ヲ以テ不レ敢ヘテセ。人之父兄ハ食ヒレ粗ヲ衣テレ悪ヲ、而我美シクスルハ二妾ト与レ馬ヲ一、ⓕ無乃非相人者乎。且ツ吾ⓖ聞以徳栄為国華、不トレ聞カレ以テスルヲ二妾ト与レ馬ヲ一。」文子以テ告グ二孟(注5)献子ニ一、献子囚フルコトレⓗ之ヲ七日。自リレ是レ子(注6)服之妾、衣ハ不レ過ギ二七(注7)升之布一ニ、馬餼(注8)(きハ)不レ過ギ二稂(注9)(らう)莠(いう)一ニ。文子聞キテレ之ヲ、曰ハク、「ⓘ過而能ク改ムル者、民之上也ト。」ⓙ使ムレ為サ二上大夫一ト。

（『国語』）

（注）
1 季文子――魯の国の人。
2 宣成――宣公・成公。
3 粟――穀物。
4 仲孫它――魯の国の人。
5 孟献子――仲孫它の父。
6 子服――仲孫它のこと。
7 七升之布――粗末な布。
8 餼――まぐさ。馬の飼料。
9 稂莠――いぬあわと、はぐさ。ともに雑草。

問一 傍線部ⓐⓑ「相」に共通する意味として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1 面会する　2 宰相となる　3 相談する　4 愛想がよい　5 諫言する

問二 傍線部ⓒ「子」、ⓗ「之」はそれぞれ誰を指すか。最も適当なものを、次の組み合わせの中から一つ選べ。

1 ⓒ 宣成　ⓗ 国人
2 ⓒ 子服　ⓗ 仲孫它
3 ⓒ 季文子　ⓗ 仲孫它
4 ⓒ 季文子　ⓗ 孟献子
5 ⓒ 孟献子　ⓗ 宣成

問三 傍線部ⓓ「亦」、ⓔ「猶」の読み方を、送り仮名も含め、平仮名で記せ（現代仮名遣いでもよい）。

ⓓ＝　　　　ⓔ＝

問四 傍線部ⓕ「無乃非相人者乎」の書き下し文として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1 無は乃ち相ひ人たる者に非ざらんや
2 無は乃ち人に相たる者に非ずや
3 乃ち相ひ人たる者に非ざる無きなりや
4 乃ち人に相たる者に非ざる無からんや
5 人と相せざる者は乃ち非ざる無からんや

問五 傍線部ⓖ「聞以徳栄為国華」は、「徳栄を以て国華と為すを聞くも」と読む。これに従って返り点をつけよ（送り仮名は不要）。

聞 以 徳 栄 為 国 華

問六 傍線部ⓘ「過」の読み方として最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1 すごして　2 とおりて　3 すぎて
4 よぎりて　5 あやまちて

問七　傍線部ⓙ「使ㇾ為二上大夫一」について、上大夫になったのはだれか。最も適当なものを、次の中から一つ選べ。

1　仲孫它　　2　孟献子　　3　季文子　　4　宣成　　5　上卿

問八　本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選べ。

1　魯の国は繁栄して、人々は豪華な食事をしていた。
2　季文子は質素な食事をしたが、馬のえさは粟だった。
3　季文子は「馬こそ国の華である」と、仲孫它に答えた。
4　仲孫它は季文子に進言したが、後に它自身が改心した。
5　仲孫它は自分の意見に固執し、季文子を追放した。

第11講 確認問題

① 「是ヲ以テ如クレ是かくノ其レ急ナリ」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　こうして成果をあげるために実行を急いだのである。
イ　従って顔子も同じことをしようとして馳せ参じたのである。
ウ　このように自然の災害の予知能力を高める努力をしたのである。
エ　それ故にこのように民を救うことを急務として力を注いだのである。
オ　これをもとにして政治家がいかなる仕事をすべきか急ぎ点検したのである。

② 「於レ是 未レ至二単 父一、」の読み方として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　これによりいまだ単父に至らざるに、
イ　これにおいていまだ単父に至らざるに、
ウ　ここにおいていまだ単父に至らざるに、

③ 「以 傲 世 見 疾」のひらがなのみの書き下し文として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　よにおごるをもってにくまる。
イ　もってよをかろんじてやまいをみる。
ウ　ほこるをもってよにあらわるることはやし。
エ　もってよのにくむをみるをかろんず。

解答

第1講　PART1　解答

〈例題一〉　⑩乙⑧下④二①③レ②⑦中⑤⑥上⑨甲。

〈例題二〉　⑦レ⑥三①②⑤二③④一

〈例題三〉　②

問一　臣不二敢以レ死為一レ戯。

問二　遂以嫁二得レ詩人一。

問三　欲三服レ勤致レ力、以報二厚徳一。

問四　以テ二寛簡不ルヲ一レ擾サ為スレ意ト。

第1講　PART2　解答

二

②（病気の子が薬を飲む。）

③（私は帝にお願いする。）

④（不死の薬を荊王に献上する。）

⑤（子路は人に竹で作った器に盛った飯を与えた。）

（例）〔臣（は）忠信を以て罪を上に得る者なり。〕

（私は忠信でありながら**罪を上位の人に得る**ものである。）

第１講　PART３　解答

〔例題四〕　ａ　や　　ｂ　なり

問五　③

問六　吾已作二薬酒一待レ之矣。

問七　使ム二旬人ヲシテ献ゼレ麦ヲ。

問八　雪珠如クレ豆ノ打ツ二茅茨ヲ一。

問九　ウ

第2講　PART1　解答

一　⑥〔須らく学ぶべし。〕（学ばなければならない。）

問一　妾は宜しく身を以て其の棺槨に薦め、其の幼孤を守り養ふべし。

問二　禹思[下]天下有[二]溺者[一]、由[中]己溺[上]之也。

問三　ウ

問四　A　ア　B　ウ

問五　1

問六　A　イ　B　エ

問七　当に子の為に酒を沽ふべし。

問八　まさにせいにゆかんとし、

問九　当に悪願を発すべからず。

第2講　PART2　解答

二　①〔王人をして之を求めしむ。〕（王は人にこれを求めさせる。）

問十　人をして中射の士を殺さしむ

問十一　妻妾をして薬酒を挙げ（て）之を進ぜしむ。

問十二　使二相聘レ焉。

問十三　令下孺子懐レ銭挈二壺甕一而往酤上。

問十四　こうをしてうまをもってひとをころさしむ

問十五　なんじ〔ぢ〕をしてひとのてにしせざらしむ。

第３講　PART1　解答

一　①〔用ゐらる〕／〔従はる〕
　　②〔唐廷の文士の推奨する所と為る。〕（唐廷の文士に推奨される。）

問一　②

問二　タモタルル

問三　④

問四　ウ

第３講　PART２　解答

二

A　③〔人に非ざるなり。〕（人ではないのである。）

B　①〔出づべからず。〕（出ることができない。）

②〔君を正す能はず。〕（君主を正すことができない。）

③〔謂ふを得ず。〕（言うことができない。）

問五　イ

問六　ハ

問七　得ることができないのである。

問八　つい〔ひ〕にかえ〔へ〕る（こと）あたわ〔は〕ず。

問九　君と難に陥る（こと）能わ〔は〕ず。

第３講　PART３　解答

二　C　⑤〔察せざるべからざるなり。〕（察しないわけにはいかないのである。）
⑥〔敢へて尽さずんばあらず。〕（尽くさないわけにはいかない。）

問十　石荊州の人柄を今まで一度もあわれまなかったことはないのである。
（石荊州の人柄をいつも必ずあわれむのである。）

問十一　観ざる者莫し。

問十二　ひと〔は〕みず〔づ〕からつとめざるべからず。

問十三　c

問十四　エ

問十五　いまだことごとくはりょうせず。

問十六　二度とは樹木の株を分割しない

第３講　PART４　解答

二

E　③〔星勝げて数ふべからず。〕
〔星数ふに勝ふべからず。〕

④〔貴と無く賤と無く、…〕（身分の高い者と低い者の区別なく、…）
〔人として情け無きは無し。〕（人はみんな思いやりがある。）

⑤〔人として学ばざるは無し。〕（人なら必ず学ぶ。）

第4講　PART1　解答

一

A　①〔何ぞ謂はざる。〕（どうして言わないのか。）

③〔何為れぞ我を去るや。〕

第４講　ＰＡＲＴ２　解答

一

Ｂ　⑤〔我を若何せん。〕

問一　③

問二　エ

問三　君王はどうして罪人の為に車から降りて泣くほど悲しんでいるのですか

第４講　PART3　解答

二
② 〔国焉くんぞ亡ぶる無きを得んや。〕（どうして国が亡びないことがあろうか、いや、亡びる。）
④ 〔敢へて知らざらんや。〕（どうして知らないことがあろうか、いや、知っている。）
⑤ 〔何の難きことか之れ有らん。〕（何の難しいことがあろうか、いや、何も難しくない。）

問四　〈読み〉　あに
〈口語訳〉　どうして昔の鶯や花であろうか、いや、違う。

問五　あんしいず〔づ〕くんぞれいをしらん

問六　どうして忠信を理由に罪を得る者がいるだろうか、いや、いない。

問七　エ

問八　イ

第５講　PART1　解答

一

②〔豈に学ばざらんや。〕（どうして学ばないだろうか、いや、学ぶ。）
〔豈に遠からずや。〕（なんと遠いではないか。）

③〔何ぞ其れ浅きや。〕

問一　イ

問二〈書き下し文〉　何ぞ其れ仁と明との周からざる無きや
〈口語訳〉　なんと仁愛と明察が広くゆきわたっているではないか

第５講　PART２　解答

二
②〔臣を釈すに如かず。〕（私を許した方がよい。）
③〔良医に如くは莫し。〕（良医が一番よい。）

問三　ひんいにしかず

問四　ア

問五　a　もし
b　ぞうぶつといえどもあたわざるところあり

第５講　PART3　解答

四
① 〔惟だ江上の丈人のみ。〕

問六　ただ

問七　やすんずるあたわ〔は〕ざらんのみ

問八　唯だ瓶と漆函とのみ

問九　a

問十　豈に独り我が父のみならんや

第６講　ＰＡＲＴ１　解答

問一　いわ〔は〕んやそれようにてきするものをや

問二　⑤

問三　まして母を捨てて公の軍隊の為に仕えることができようか、いや、なおさらできない

第６講　ＰＡＲＴ２　解答

二　（〜聞かせてください。）
（〜察してください。）

問四　どうか私に三言だけ言わせてください。

第７講　ＰＡＲＴ１　解答

三　③〔渡らんと欲す。〕

問五　すなわちひんいにしかず

問六　(a)　②　(b)　①

★補足

一 「複数の句法に使用される漢字」

① 於・于・乎（文中）

(1) **置き字**

(2) 「**受身**」 V二於N一　＊N＝Vの動作主　（NにVされる）

(3) 「**比較**」 A二於N一　（Nより（も）A）

② 敢

(1) **敢**（あヘテ） ＝ （すすんで・わざわざ・おもいきって）

(2) **安**（いヅクンゾ）**敢**（あヘテ）～ン（ヤ） ＝ （どうしてわざわざ～しようか、いや、決して～ない）

(3) **不敢～** ＝ 〔敢へて～ず〕／（決して～ない）

(4) **敢不～乎。** ＝ 〔敢へて～ざらんや〕／（どうして～しないことがあろうか、いや、～する）

③

若・如　＊書き下し文「如」＝「若」同様。

（1）**文頭**にあって**下から返らない**とき「　**仮定**　」／（もし～ならば）

（2）**下から返る**とき「**比況**の助動詞」ごとシ／（～のようだ・～と同じだ）

（3）**不レ如**・**弗レ若**　～ニ ＝〔～に如かず　〕／（～の方がよい・～に及ばない）

莫レ如・**無レ若**　～ニ ＝〔～に如くは莫〔無〕し〕／（～が一番よい・～にこしたことはない）

（4）「**疑問**」

〈文頭〉如何・若何～＝〔如何ぞ～〕／（どうして～か）

〈文末〉如何・若何。＝〔如何（せん）〕／（～はどうするか）【　方法　】

〈文末〉何如・何若。＝〔何如〕／（～はどのようであるか）【　状態・結果　】

（5）「**反語**」

如何・若何

〈文頭〉〔如何ぞ～ん〕／（どうして～だろうか、いや、～ない）

〈文末〉〔～（は）如何せん〕／（～はどうしようもない）

④

能

(1)　**能**＝〔能ク〕／（～できる）

＊**善**＝～することが上手だ

銭明経善レ詩。　〔銭明経詩を善くす。〕（銭明経は詩を作ることが上手だ。）

(2)　**不レ能**＝〔能はず〕／（～できない）

(3)　**安能**～ン(ヤ)・**豈能**～ン(ヤ)　／（どうして～できるだろうか、いや、～できない）

第７講　PART２　解答

二
問一　五言律詩　問二　眠・辺・綿・縁　問三　一組

三
問一　七言絶句　問二　エ

〈現代語訳〉

二
戦場で国境の守備につく兵士よ、寒く辛い中、どのように寝ているのですか。軍衣は私の手作りですが、誰の元に届くのか知ることができましょうか。思いを込めて糸をたくさん使って縫い、気持ちを込めてさらに多くの綿を入れました。現世ではすでに別れて過ぎてしまいましたが、来世で夫婦として縁を結びましょう。

三
私は揚子江のほとりに来て望見すれば、ひとひらの白い雲と幾つかの山があるばかりである。我が身を天柱の先端に置いて、太陽や月が人間界を巡っていくのを上から逆に眺めてみたい。

第８講　解答

〔例題一〕　ウ
〔例題二〕　エ

五

問一　イ　問二　ウ　問三　エ　問四　ウ　問五　エ　問六　オ

〔現代語訳〕

五

十月に鷹は籠を出て、草は枯れて雉や兎は肥えふとる。
鷹は腕につける革具から下りて猟師の指示に従い、百回投げ放って一度も失敗することはない。
鷹の翼は風のように速く、爪は錐のように鋭い。
翼や爪は、もともと鷹のためにつけられているものなのに、今は人に利用されている。
誰が鷹にそのようにさせる（人のために狩りをする）ことができるのか、じつはとてもわかりやすい術がある。
鷹が従順であったり反抗したりする性質を利用し、飢えている時や満腹の時に制御するのである。
長く満腹にさせてはいけないし、長く飢えさせてもいけない。
飢えると鷹は力が足りず、満腹になれば人に反抗して飛び去ってしまう。
飢えを利用して襲いかからせ、まだ満腹になる前に必ず繋がなければならない。
こういう理由で爪と翼によって手柄を立てるのだが、人はいながらにしてこの手柄を自分のものにする。
優れた君主が優れた臣下を操る術も、やはりこのようである。
卑しいものが語った話も捨てるべきではない、私はこの話を猟師に聞いた。

第９講　解答

一
問一　A　と　C　み　E　また　問二　４　問三　視二其所一レ使　問四　３

二
問一　①　問二　③　問三　②
問四　（１）不三敢脱二羊裘一
（２）普段と違う豪華な服を着ると、偽ることになるので、高祖には偽りのない姿で謁見し、誠実なままでいたかったから。

三
問一　いず〔づ〕くに　／　いず〔づ〕こに　問二　３　問三　５　問四　６

〔現代語訳〕

一

孔子が言うことには、「子夏は好んで自分より優れた者と居り、子貢は好んで自分より劣った者といる。ある子供のことをよくわからなければその父親を見て、ある人のことがよくわからなければその友人を見て、ある君主のことがよくわからなければその家来を見て、ある土地がよくわからなければそこに生えている草木を見る。だから『善人といるのは、霊芝と蘭のある部屋に入るようなものだ。長い時間そこにいるとその香りがわからなくなってしまう。つまり善人の影響を受けて善人になったのだ。悪人と一緒にいるのは、魚の干物の店に入るようなものだ。長い時間そこにいると匂いがわからなくなってしまう。これもまた、悪人の影響を受けてしまうのである』と言われている」と。

二

婁敬は話は遡るが虞将軍を頼りにして高祖にお目通りしようとしたときに、粗末な毛織物の上着を着て、羊の毛皮でつくった衣類を着ていた。虞将軍は自分が着ていた服を脱いで婁敬に着せようとした。婁敬が言うことには、「私はもとから絹織物を着ていれば、絹織物を着てお目通りします。私はもとから粗末な衣類を着ているので、粗末な衣類を着てお目通りします。仮に粗末な衣類を捨てて、華やかな衣類を借りたならば、これは普段を偽ることになります」と。（婁敬は）決して羊の毛皮を脱ごうとせず、粗末な衣類を着たまま高祖に謁見した。

三

晋の向靖、字は奉仁、河内の人である。呉興郡にいた時に幼い娘を亡くした。娘は病気になりはじめたころ、小刀を弄んでいて、母親が奪い取ろうとしたが渡さず、母親の手を傷つけてしまった。（娘が）亡くなってから一年後、母はまた一人の女の子を生んだ。その女の子が四歳の時に、母親に言うことには「あの時の小刀はどこにあるのですか」と。母親が言うことには「無いよ」と。女の子が言うことには、「昔小刀を奪い合って、それでお母さんの手を傷つけてしまいました。どうしてないのですか」と。母親はとても驚き不思議に思いことこまかに向靖に告げた。向靖が言うには、「その時の小刀はまだあるのかないのか」と。母が言うには、「死んだ娘のことを思い出すのがとてもつらいので、使っていないのです」と。向靖が言うことには、「さらにもう何個か小刀を求めて、合わせて同じところに置き、娘自身に選ばせなさい」と。娘が（小刀を）見てとても喜び、すぐに以前の小刀を取って言うことには、「これが私のものです」と。両親・家族がそこでやっと以前の娘が本当にこの娘の前世であることを理解した。

第10講　解答

一

問一　しゅじんにかえ〔へ〕すに、そのどしょくをきょうせんとほっす

問二　欲三服レ勤致レ力、以報二厚徳一。

問三　お前の妻に私の為に絹の織物を百疋織らせよ

問四　父親が生きているときには大切にして、父親が亡くなれば自分を売って奴隷となり、そのお金で葬儀をして、主人からお金をもらうと三年間喪に服したこと。

二

問一　(1) イ　(2) イ　(3) オ　**問二**　(a) ウ　(b) ア　(d) イ　(e) ア

問三　A ア　B ウ　**問四**　A エ　B ア

問五　ウ　**問六**　ア・ウ　**問七**　エ　**問八**　エ

三

問一　環境によって結果として悪人となってしまうこと。

問二　本来は悪人ではないのに、貧困の為に盗人にならざるをえなかった盗人に善に戻ってほしかったから。

問三　a

問四　盗

〔現代語訳〕

一

漢の董永は、千乗の人である。若くして（母親がいなくなり）片親のみとなり、父親といた。力を畑仕事に尽くして、（父親を）小さい車に乗せて自分はその後について従った。父親が亡くなると、葬る（お金が）無かったので、そこで自分を売って奴隷となり、それで得たお金で葬儀を行った。主人は董永の賢さを知り、銭一万を与えて、送り出した。董永は三年間の喪に服しそれが終わると、主人にお金を返すのに、奴隷の仕事で返そうと思っていた。道で一人の女性に逢った。（その女性が）言うことには、「どうかあなたの妻にならせてください」と。そこでその結果（董永は）この女性と一緒になった。主人が董永に言ったことには、「お金はお前にあげたのだ」と。董永は「ご主人様の恩恵をいただき、父の埋葬も完了しました。私はつまらない人間ですが、必ず仕事に力を尽くし、厚い御恩に報いたいです」と言った。主人が言うことには、「（お前の）妻は何ができるのか」と。董永は「織物ができる」と言った。主人が言うことには、「必ずそれならば、ただお前の妻に私の為に絹の織物を百疋織らせよ」と。そこで董永の妻は主人の家の為に織物をし、十日で終わった。女が門を出て、董永に言うことには、「私は天の織女である。あなたがたいそう親孝行なので、天帝は私にあなたの負債を償うのを助けさせただけなのです」と。語り終わると、空に昇って、どこにいるのかわからなくなってしまった。

二

衛の霊公の時、蘧伯玉が優れていたのに登用されず、迷子瑕は劣っているのに仕事についていた。史鰌はこれを憂慮して、しばしば蘧伯玉が優れていることを言ったが許可してもらえなかった。（史鰌が）病気になり今や死にそうになって、自分の子供に言うことには、「私がもし死んだならば、（死者に罪があることを示す）北堂で葬儀を行え。私は生きている時に蘧伯玉を（高位に）進められなかったし迷子瑕を退けることができなかった。これは君主を正すことができなかったことで、死んでも当然礼にかなった立派な葬儀をするべきではない。私の屍を北堂に置いたならば、私は満足だ」と。（史鰌が亡くなると）霊公は行って弔い、（北堂に屍を置いている）その理由を質問した。その子は父親の言葉を（霊公に）申し上げた。霊公は驚いて顔色を変えて言うことには、「私は過失をおかした」と。すぐさま蘧伯玉を召して彼を貴び、迷子瑕を召して退けて、（史鰌の）葬儀を行う場所を堂に移して、礼にかなった立派な葬儀を行いその後に去った。衛の国が治まっていた

のは、史鰌の力である。そもそも生きている時に賢者を進めて劣っている者を退け、死んでもまだ止めないで、またも屍で君主を諫める（ことは）、忠心衰えずと言うことができる。

三

時に凶作の年で人民が貧しかった。盗人が夜にその家〔＝陳寔の家〕に入って、梁の上にとどまっていた。陳寔はひそかに（盗人）を見てそこで起き上がって、自分で身なりを整えて子と孫を呼んで招いて、真面目な顔つきをして子と孫に教えて言うことには、「そもそも人間は自分で努力しないわけにはいかない。不善の人も、必ずしももとから悪人ではない。（悪い）習慣によって（その「悪」がその人の）性質になってしまい、その結果この状態〔＝悪〕に至るのである。梁の上にいる君子がこれである。」と。盗人はたいへん驚き自分から地上に降りて、ぬかずいて自分の罪を認めた。陳寔はゆっくり彼を諭して言うことには、「君の容姿容貌を見ると悪人には見えない、自分自身によくうち勝ち善に戻る方が良い。だがこれはきっと貧困によるものにちがいない」と。（家来に命じて）絹二匹を贈らせた。これ以来その県にふたたび盗みを働く者はいなくなった。

第11講　解答

一

問一　A　ここをもって　B　ふうし　C　ひそかに

問二　X　オ　Y　ウ　Z　ア

問三　イ

問四　孔子は普段、仁愛を行うように教えているのに、自分が仁愛を行おうとするのを止めるのは、矛盾していて納得がいかない

問五　暴雨の将に至らんとするを以（っ〔つ〕）て

問六　オ

二

問一　2

問二　3

問三　d　また　e　なお〔ほ〕

問四　4

問五　聞（下）以（二）徳栄（一）為（中）国華（上）

問六　5

問七　1

問八　4

〈現代語訳〉

一

子路が蒲の長官となった。水害の備えの為に蒲の人民と田畑の間に掘った溝を修理した。人民が働いて疲れて苦しんでいるので、一人一人に竹で作った器に盛った飯と壺に入れた飲み物を与えた。孔子がこれを聞いて、子貢にこれを止めさせた。子路は怒って機嫌が悪くなり、孔子にお目通しをしに行って言うことには、「私は、暴雨が今にも来そうなので、水害があることを恐れています。だから人民と溝を修理して、これで暴雨に備えているのです。だが、人民に貧しく飢えている者が多いのです。だから器の飯と壺の飲み物を人民に与えているのです。先生は子貢にこれを止めさせたのは、先生が、私が仁愛を行うのを止めているのです。先生は仁愛を教えているのに、私が仁愛を行うのを禁じるのは、私は受け入れられません」と。孔子が言うことには、「お前が、人民が飢えていると思うのならば、どうして主君に事情を申し上げて穀物倉を開き、人民を救済しないのか。なのに、こっそりとお前の食物を人民に贈るのは、お前が主君が恵みがないことを明らかにして、自分の徳の美しさを示しているのだ。お前がすぐに止めれば、よい。そうしなければ、お前が処罰されるのは明らかだ」と。

二

季文子が宣公と成公の宰相であったが、絹を着た下女もおらず、穀物を食べる馬もいなかった。仲孫它が（季文子に）諫めて言うことには、「あなたは魯の上卿となって、二人の君主の宰相である。下女は絹を着ておらず、馬は穀物を食べていない。（一般）人はそもそもあなたが（お金を）惜しんでいると考え、さらに国を華やかにしていないのではないか」と。季文子が言うことには、「私もまたこれ〔国の繁栄〕を願っている。しかし私は国民を観ると、その父兄は粗末なものを食べ粗末な服を着ている者がやはり多い。私はだから決して（絹を着させたり穀物を馬にやったりなどの贅沢は）しないのである。国民は粗末なものを食べ粗末なものを着て、私は下女と馬を贅沢に扱うのは、それは国民のための宰相である者ではないのではないか。さらに私は徳と光栄は国の最高のものだと聞いたことはあるが、下女と馬が国の光栄であるとは聞いたことがない」と。季文子は孟献子に告げると、孟献子が仲孫它を捕えること七日間。それ以降、子服〔＝仲孫它〕の下女は、粗末な布で織ったものにすぎず、馬の飼料はいぬあわとはぐさ〔＝雑草〕にすぎない。季文子はこれを聞いて、言うことには、「過っても改めることができるものは、国民の上に立つ者である」と。（季文子は仲孫它を）上大夫に任命した。

確認問題　解答

第1講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「書き下し文」のルールは、①返り点に従って読む。②置き字は書かない。③漢字は漢字のままだが、助詞・助動詞として読む漢字は平仮名にする。④漢字の右下の送り仮名を平仮名で書く。⑤再読文字は最初の読みは漢字で、二度目の読みは平仮名で書く。という五つのルールがある。それらに加え、基本として平仮名は歴史的仮名遣いで書く。

② ①で挙げたルールに従って書き下し文にする。「与」・「乎」は助詞、「不」は助動詞として使用されているので、ここでは平仮名に直して書き、「而」は置き字なので書かない、という点に注意する。また、「交（ハリテ）」の部分は歴史的仮名遣いのまま平仮名で書く点にも気をつける。

③ 基本的には上から下に返り点のついていないものから読み下していき、その都度返り点の指示に従う。二字以上返る「一・二点」、一・二点をはさんで返る「上・中・下点」、更に上・中・下点をはさんで返る「甲・乙点」の順番に気をつける。また、「－」でつながったものは熟語なので、続けて読む。

④ まず最初に「③①②」となっているので、②から③へ一・二点で返る。次に、③のすぐ上に④があるので、③から④にレ点で返る。⑤〜⑦へは、一・二点を使用した①〜④までの部分をはさんで返るので⑤から⑥へ上・下点を使用し、レ点で⑦に返る。

⑤　まず最初の「君子」を読んだ後、「言に訥(とつ)にして」となるように一・二点をつける。「於」は置き字なので書き下し文にする際には書かないが、返り点をつける際には一字と考えるので注意する。「而」も置き字で読まないので、そのまま次の「行に敏(びん)ならんことを欲す」となるように返り点をつけるが、「訥於言」で一・二点を使用したので、最後に「欲」に返るように上・中・下点を使用する。

〔解答〕

①　オ　②　イ　③　イ　④　エ　⑤　ウ

第1講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① ア～ウは基本構文のうちの「S＋V＋O〔主語＋述語＋目的語〔＝～ヲ〕〕」の構文であり、エは「S＋V＋C〔主語＋述語＋補語〔＝～ニ・ト・ヨリ（モ）〕〕」の構文である。エの動詞は「言う」の意味になる「告」なので、「S＋V＋C」の構文となる。それぞれ、ア「我道を聞く。」、イ「汝(なんぢ)人を得る。」、ウ「吾(われ)之を習ふ。」、エ「子之に告ぐ。」となる。

② イは基本構文のうちの「S＋V＋O〔主語＋述語＋目的語〔＝～ヲ〕〕」の構文であり、書き下し文にすると「吾家書を読む。」となる。その他は、基本構造のうちの「S＋V＋**於・于・乎**＋C〔主語＋述語＋補語〔＝～ニ・ト・ヨリ（モ）〕〕」の構文である。それぞれ、ア「士道に志して、」、ウ「子匡(きよう)に畏(い)す。」、エ「我母に請ふ。」となる。

③ 「名＋動＋名＋於＋名」の構造に当てはまるため、「S＋V＋O＋**於・于・乎**＋C」の構文であることがわかる。「生」が動詞なので、その下の「徳於予」は「徳」が目的語（～ヲ）、「予」が補語（～ニ）となり、「予」から動詞である「生」に返って読むため、返り点は一・二点を使用する。

④ 「君子」＝名詞、「与」＝動詞、「宰相」＝名詞、「書」＝名詞なので、「S＋V＋C＋O」の構文であることがわかる。よって、「宰相書」の部分は「宰相」が補語（～ニ）、「書」が目的語（～ヲ）となる。

⑤　主語にあたる語は、傍線部の前にある「王(わう)」。文頭の「蔵」が動詞の意味で使われているので、傍線部は「動＋名＋名」の形。したがって「(S＋) V＋O＋C」か「(S＋) V＋C＋O」の構文。「之」を「廟堂(べうだう)之上」にしまう、と訳すると意味を理解できるので、「(S＋) V＋O＋C」だと判断する。したがって、「之」に「を」、「廟堂之上」に「に」を送ればよい。よって、エが正解。

〔解答〕

①　エ　②　イ　③　ウ　④　ア　⑤　エ

第1講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 置き字とは、意味はあるがそれ自体は読まない文字であり、書き下し文では書かない、というルールがある。「於・于・乎」は前置詞の働きをし、「時・場所・比較・受身・目的・起点・対象」などを表しており、直後の送り仮名は「ヲ・ニ・ト・ヨリ（モ）」となる。「矣」は強意の働きをし、文末に置かれる置き字である。

② 「兮」は詩の中でのみ用いられる、整調の働きを持つ置き字である。例文は詩の一部であり、書き下し文は「虞(ぐ)や虞や若(なんぢ)を奈何(いかん)せん」となる。

③ 「而」・「于」の二つの置き字が使用されている。「而」は接続の働きをする置き字であり、直前に読む字に送り仮名を送る、というルールがある。順接の場合「モ・シテ・ニシテ・デ」、逆接の場合「モ・ドモ・ニ」と送る。「于」は前置詞なので直後の字に「ヲ・ニ・ト・ヨリ・（モ）」と送り仮名を送る。

④ 「而」は文頭に来る場合、置き字ではない使い方をし、書き下し文にする際にも読む。順接の場合「而(しかう)シテ・而(しか)シテ」、逆接の場合「而(しか)ルニ・而(しか)ルヲ・而(しか)モ・而(しか)レドモ」と読む。

⑤ 「於」・「而」の二つの置き字が使用されている。「而」は文中での使用なので、置き字であり読まないため、ウは誤り。イは返り点の語順になっていないので誤り。また、残るはアとエだが、「而」は置き字の場合、直前に読む字に「ニシテ」と送る。よって、アが正解。

〔解答〕

①　イ

②　ウ

③　エ

④　イ

⑤　ア

第２講　PART１　確認問題　解答

〔解説〕

① 返り点のついている順番で読んでいき、読み方が同じになるものを選ぶ。再読文字の「未」は「未(いま)ダ〜ず」と読む。問題文中では「有り」に続くように「未ダ〜ざル」となっていることに注意する。

② 訳から、「当」は再読文字として、「まさニ〜ベシ」と読むべきことがわかる。よって、イが正解。

③ イ「遂」は「つひニ」と読む副詞。ア「応(まさ)ニ〜ベシ」、ウ「宜(よろ)シク〜ベシ」、エ「須(すべか)ラク〜ベシ」と読む再読文字。

④ 「将」は再読文字で「まさニ〜ントす」と読む。よって、エが正解。「将」は再読文字以外で他の読み方もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えよう。

⑤ 「盍」は再読文字で「盍(なん)ゾ〜ざル」と読む。よって、ウが正解。

〔解答〕

①イ　②イ　③イ　④エ　⑤ウ

第2講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 訳から、「使」を使役の助動詞「しム」と読むことがわかる。その下を見て、動詞を探すと「償」が動詞。よって、「使」と「償」の間にある「相」が使役の対象で、送り仮名は「をして」。よって、イが正解。

② 返り点のついている順に読んで読み方が同じになるものを探す。「令」は使役の助動詞で「しム」と読む。問題文では連用形になっているため、読み方は「しメ」となる。「四面騎馳下」に当たる書き下し文を見ると、「四面の騎（き）をして馳（は）せ下ら」となっているので、この部分はひとまとまりで読むとわかる。よって、アが正解。

③ 返り点のついている順に読んで読み方が同じになるものを探す。「使」は使役の助動詞で「しム」と読むことから、「治めしむ」と読むためには「治」の直後に「使」を読むように返り点を打つ必要がある。よって、イが正解。

④ 使役の助動詞「使」は「しム」と読み、「使Ｖ」のＶ（＝動作）は未然形となる。Ｖに当たる「相会」は、サ行変格活用「相会（あひくわい）す」の未然形「相会せ」となるので、ひらがなにすると「あひくわいせしむ」となる。よって、エが正解。

⑤ まず返り点のついている順に読むと、「責」を最後にしているアは除外できる。「令レ帰二河東一」の部分は、令レＶ二Ｏ一（Ｖ＝動作　Ｏ＝動作の目的）の形。読み方は、「Ｏニ（ヲ）Ｖしム（問題文では連用形なので「しメ」）」となる。また、Ｖの活用は未然形。書き下すと「河東に帰らしめ」となる。よって、ウが正解。

〔解答〕

①　イ

②　ア

③　イ

④　エ

⑤　ウ

第3講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「被」は受身の助動詞「る・らル」。「罪す」というサ行変格活用動詞を未然形にすると直前が「せ」で、ア段ではないので「らる」。打消の助動詞「不」が続くので、活用して「られ」となる。よって、エが正解。

② 「見」は受身の助動詞「る・らル」。ここでは四段活用動詞「逐(お)ふ」の未然形に接続しているので「る」と読み、「追い出される」という意味。よって、イが正解。

③ 「為二N所一レV」は助動詞を使わない受身の句形で、「NノVスルところトなル」と読む。よって、ウが正解。

④ 「為二N所一レV」は助動詞を使わない受身の句形で、「NにVされる」という意味。選択肢の中で受身の意味になっているのはアのみ。よって、アが正解。

⑤ 「V二ル（ラル）於〔乎・于〕N一」の形の場合、「NにVル〔ラル〕」と読み、「NにVされる」という意味になる。よって、イが正解。書き下すと「友に信ぜられざれば、上(かみ)に獲(え)られず。」となる。

〔解答〕

① エ　② イ　③ ウ　④ ア　⑤ イ

第3講 PART2 確認問題 解答

〔解説〕

① 「～するな」「～してはいけない」という禁止の意味を表すのは「無・莫・毋・勿」で、「なカレ」と読む。書き下すと、「関(くわん)を距(ふさ)ぎて諸侯を内(い)るること毋(な)かれ。」となる。よって、アが正解。

② 選択肢を一つずつ確認する。アは文意が通らない。イは直下（返ってくる語）はN、またはVの場合は連体形（＋モノ・コト）なので不適。ウは「人が行えることではないのだ」となり、文意が通る。エは目的語「之」がこの位置では成立しない。よって、ウが正解。

③ 「不㆑可㆑V」は「Vべカラず」と読み、「Vできない」という意味。よって、イが正解。

④ 返り点に従って読むと「佳人(かじん)を懐(おも)ひて」が先にくるので、イかエ。「不㆑能㆑忘」の返り点に従うと、「よくわすれず」とは読めない。「わするるあたはず」と読み、「忘れることができない」という意味。よって、エが正解。

⑤ 「不㆑得㆑V」は「Vヲえず」と読み、「Vできない」という意味。書き下すと、「詔(みことのり)有りて召すに非(あら)ざれば、上(のぼ)るを得ず。」となる。よって、イが正解。

〔解答〕

① ア　② ウ　③ イ　④ エ　⑤ イ

第３講　PART３　確認問題　解答

〔解説〕

① 返り点に従うと「思」から始まるので、イかエ。「無不～」は「～ざル（ハ）なシ」と読み、「～しないものはない」という意味。「思ひに」と読むのであれば、語順は「無レ不レ服レ思」となるので、イは不適。よって、エが正解。

② 「不可不～」は「～ざルベカラず」と読み、「～しないわけにはいかない」という意味。書き下し文は「蚤（はや）く自（みづか）ら来たりて項王（かうわう）に謝せざるべからず。」となる。よって、ウが正解。

③ 「未二嘗不一レ～」は「いまダかつテ～ずンバアラず」と読み、「今まで一度も～しなかったことはない」という意味。文末が「也」なので、「ず」は「ざる」と活用する。よって、イが正解。

④ 「不復～」は「まタ～ず」と読み、「二度とは～ない」という意味の部分否定。「復不～」であれば「今回もまた～ない」という意味の全部否定となるので、漢字の語順に注意する。書き下し文は「兎（うさぎ）復（ま）た得べからずして、…」となる。よって、アが正解。

⑤ 「不倶～」は「ともニハ～ず」と読み、「両方ともは～ない」という意味の部分否定。「倶不～」であれば「ともニ～ず」と読む全部否定となるので、漢字の語順に注意する。よって、エが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ イ　④ ア　⑤ エ

第３講　PART4　確認問題　解答

〔解説〕

①「未嘗〜」は「いまダかつテ〜ず」と読むので、正解はウ。

②「不敢〜」は「あへテ〜ず」と読み、「決して〜ない」という意味。よって、アが正解。「敢不〜」は「あへテ〜ざランや」と読み、反語の意味になるので、語順に注意して判断する。

③「A不レ可二勝B一」は「AあゲテBべカラず」または「ABニたフべカラず」と読み、「AはBきれないほど多い」という意味。よって、エが正解。

④「無レA無レB」はAとBが対義語である場合、「AトなクBトなク」と読み、「AとBの区別なく」という意味。ここでは、「富める者と貧しい者の区別なく、皆父母を敬う」という文脈。よって、ウが正解。

⑤「無二N不一レV」は「NトシテVざルハなシ」と読み、「VしないNはない＝Nなら必ずVする」という意味。よって、イが正解。

〔解答〕

①　ウ　　②　ア　　③　エ　　④　ウ　　⑤　イ

第４講　PART1　確認問題　解答

〈解説〉

① 現代語訳を参考にして考える。アは「いづレノ日ニカ」、ウは「いづレノ處ニカ」、エは「いづレノ時ニカ」と読み下す。イは「何為」で「なんすレゾ去らざるや」と読む。よって、イが正解。

② 「孰」は「たれカ」か「いづレカ」と読む。よって、ウが正解。

③ アは「いづレノ〜」の形で、理由をたずねている。イは文末が「〜ンや」となっているので、反語。ウは「なにヲ〜」の形で、手段をたずねている。エは「なんすレゾ〜」の形で、理由をたずねている。よって、イが正解。

④ 「何以」には、理由を問う場合と手段を問う場合がある。ここでは、空欄以降の「怨みには正しさを…徳には徳を…」という文脈から、徳に報いる手段を問うていると判断できる。よって、エが正解。

⑤ 現代語訳を参照すると、疑問の意味であることがわかる。「悪（乎）」を疑問の句形として読み下すときは「いづクニカ〜」となる。よって、アが正解。

〈解答〉

① イ　② ウ　③ イ　④ エ　⑤ ア

第４講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「〜乎」は疑問形で「〜だろうか」と訳す。よって、エが正解。

② 「〜何也」は、文末にあって理由をたずねる形で、「〜（ハ）なんゾや」と読み下す。よって、ウが正解。

③ 「幾何」は「いくばく」と読み、数量や程度をたずねる言い方。よって、イが正解。

④ 文末にある「何如」は、「〜はどのようであるか」と訳し、状態や結果をたずねる。よって、エが正解。

⑤ 「如＋O＋何」の形は「Oヲいかんセン」と読み、「Oをどうすればいいか」と訳す。よって、アが正解。

〔解答〕

① エ　② ウ　③ イ　④ エ　⑤ ア

第4講　PART3　確認問題　解答

〔解説〕

① 「〜ンや」は反語の句形。よって、イが正解。

② 「豈〜哉」は反語の句形。よって、ウが正解。

③ ア・イ・ウは、疑問と反語の句形に違いがなく、送り仮名の「〜ンや」がついているかどうかで意味を見分ける。エは「可〜也」という反語特有の句形である。よって、エが正解。

④ 現代語訳から、「何〜」を「どうして〜」と訳すものを選ぶ。アは「何」を「なんゾ」と読んでおり、「どうして〜か（いや、〜ない）」と訳す。イは「何〜」にない読み方。ウは「何」を「いづクニ」と読んでおり、「どこに〜か」と訳す。エは「何〜」にない読み方。「なんすレゾ」と読むのは「何為〜」である。よって、アが正解。

⑤ 「不敢〜」は「あへテ〜ず」で、「決して〜ない」の意味。「敢不〜」は「あへテ〜せざランヤ」で、「どうして〜しないだろうか、いや、する」の意味。返り点通りに読むと、AもBも最初が「敢」なので、a・f以外。その次に「ず」や「ざら」など、打消の読みが重複しているbとeも削除。そうすると語順より、Aがcで、Bがd。よって、オが正解。

〔解答〕

① イ　② ウ　③ エ　④ ア　⑤ オ

第５講　PART1　確認問題　解答

〈解説〉

① 「Ａ（＝連体形）哉Ｎ也。」で「Ａかな、Ｎや。」と読み、「Ａだなあ、Ｎは。」と詠嘆の意味を表す。ここでは、「賢なるかな、回や。」（＝賢明であるなあ、回は。）などと訳す。よって、ウが正解。

② 「夫」は「かな」と読み、句末に置いて詠嘆＝「〜だなあ」の意味を表す。ここでは「このようだなあ」と訳す。ウ「已矣乎」は「やンヌルかな」、エ「宜乎」は「むベナルかな」と読み、いずれも詠嘆を表す。よって、アが正解。

③ 「哉」は「かな」と読み、詠嘆を表す。よって、イが正解。「哀哉」＝「なんと情けないことだなあ。」などと訳す。

④ 「不亦…乎」は「また…ずや」と読み、「なんとまあ…ではないか」と詠嘆の意味を表す。よって、エが正解。

⑤ 「何…也」は「なんゾ…や」と読み、「なんと…ではないか」と詠嘆の意味を表す。よって、アが正解。

〈解答〉

①　ウ　　②　ア　　③　イ　　④　エ　　⑤　ア

第5講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 「不若」は「しカず」と読み、比較の句法。「若」は複数の句法で使用される文字だが、「不・弗」とセットで使われていれば、まずは、「〜ニしカず」の「比較」から考えるとよい。よって、エが正解。

② 「苟」は「いやしくモ」と読み、「もし〜ならば」の意味。よって、イが正解。

③ 「雖」は「いへどモ」と読み、逆接を表す。古文とは違い、仮定・確定のどちらの意味もあるので、文脈判断が必要であるが、この場合はイの逆接の選択肢のみ。よって、イが正解。

④ 「於」には「場所を示す・比較・使役」の働きがある。ここでの「於」は「A㆓於N㆒」（＝NよりもA）の形で用いられる比較形。よって、アが正解。

⑤ 「微㆓〜㆒」は「〜なカリセバ」と読み、「〜がなかったならば」の意味。よって、ウが正解。

〔解答〕

① エ　② イ　③ イ　④ ア　⑤ ウ

第５講　PART３　確認問題　解答

〔解説〕

①「唯」は「たダ」と読み、限定の句法。「ただ」と読めるものはウ。よって、ウが正解。

②「豈惟」は「豈ニ惟ダ（ニ）～ノミナランヤ」と読む。よって、イが正解。

③「耳」は「のみ」と読み、「～だけだ」の限定の意味を表す。よって、イが正解。

④「直」は「たダ」と読み、「耳」（＝ノミ）と呼応して「たダ～ノミ」と読んで限定を表す。よって、エが正解。

⑤「独」は「ひとリ～ノミ」と読み、「ただ～だけだ」と限定の意味を表す。よって、ウが正解。

〔解答〕

①ウ　②イ　③イ　④エ　⑤ウ

第６講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 「Aスラ尚ホB。況ンヤCヲや」と読む抑揚の句形。「尚ホ」の部分は「猶ホ」「且ツ」なども用いられる。よって、ウが正解。

② 「Aスラ且ツB、況ンヤCヲや」と読む抑揚の句形は、「AでさえB、ましてCはなおさらだ」という意味。よって、アが正解。

③ 「AでさえB、ましてCはなおさらだ」という意味の抑揚の句形。直訳すると「庶民同士の交際でさえだまし合うことはない。まして大国はなおさらだ。」となる。よって、イが正解。

④ 「A尚B、況C乎」は「AスラなホB、いはンヤCヲや」と読む「抑揚」の句形。よって、ウが正解。

⑤ 「まして～はなおさらだ」という意味になるのは抑揚の句形。選択肢の中で抑揚の句形で用いられるのはエの「而況」で、「しかルヲいはンヤ」と読む。よって、エが正解。

〔解答〕

① ウ　② ア　③ イ　④ ウ　⑤ エ

第６講　PART２　確認問題　解答

〔解説〕

①「どうか〜させてください」という意味になるのは願望の句形。選択肢の中で願望の句形で用いられるのはエのみ。よって、エが正解。

② 書き下し文にすると「願はくは伯具(はくつぶさ)に臣の敢へて徳に倍(そむ)かざるを言へ。」となる。「願ハクハ〜命令形」なので相手への願望を表し、「どうか〜してください」と訳す。よって、アが正解。

③ 書き下し文にすると「臣請ふ、入りて之と命を同じくせん。」となる。「請フ〜ン」は自分の願望を表し、「どうか〜させてください」と訳す。よって、エが正解。

④「請」を用いて「どうか〜してください」という意味の願望を表す句形は「請フ〜命令形」。よって、イが正解。

⑤「庶幾」は「庶」や「幾」と同じく、願望の句形で用いられるときは「こひねがハクハ」と読み、文末は「〜ン」や命令の表現となる。よって、ウが正解。

〔解答〕

① エ　② ア　③ エ　④ イ　⑤ ウ

第７講　PART1　確認問題　解答

〔解説〕

① 返り点の順に従っているものはウ・エ。「Aヲもつテ Bトなス」と読み、「AをBにする」という意味。よって、ウが正解。

② 「乃チ」は「すなはチ」と読み、「そこで・やっと・なんと」という意味。よって、エが正解。

③ 「不敢～」は「あヘテ～ず」と読む否定の句形。よって、アが正解。なお、イのように「あヘテ～ざランや」と読む場合は「敢不～（乎）」となる。

④ 「莫レ若」は「～ニしクハなシ」と読む比較の句形。よって、イが正解。

⑤ 「豈能～」は「あニよクー～ン（や）」と読み、「どうして～できるだろうか、いや、できない」という意味になる反語の句形。よって、エが正解。

〔解答〕

① ウ　② エ　③ ア　④ イ　⑤ エ

第7講　PART2　確認問題　解答

〔解説〕

① 一行が五文字なので五言詩、四行の詩なので絶句。よって、アが正解。

② 七言詩なので初句と偶数句の末字の音の響きが同じになる（押韻）。初句の末字は杯（hai）、第二句の末字は催（sai）。選択肢の中で「ai」の音になるのはイの「回」（kai）。よって、イが正解。

③ 奇数句・偶数句の順で返り点の打ち方が同じであればほぼ対句であり、律詩（八行）の場合は「第3句と第4句」か「第5句と第6句」のどちらかは必ず対句である。イ・ウは両方ともそれぞれ返り点の打ち方が同じで構成要素も同じなので対句。アは、返り点はないが構成要素が同じなのでこれも対句。返り点の打ち方も構成要素も異なるのはエ。よって、エが正解。

④ 漢詩の主題は最終段落にある。四行の詩（絶句）は一行を一段落と捉えるので、四行目に当たる第4句が主題。よって、エが正解。

⑤ 七言詩の場合、一つの句の意味のまとまりは2・2・3となる。よって、ウが正解。

〔解答〕

① ア　② イ　③ エ　④ エ　⑤ ウ

第８講　確認問題　解答

〔解説〕

① **律詩**は**３・４**句目と**５・６**句目のどちらかは**対句**。なので、可能性が高いそれらから確認すると、どちらも返り点の打ち方が同じで構成要素も同じ。よって、正解はウ。

② **押韻**の問題。**七言詩**なので、**初句と偶数句の最後の文字**「遺」＝i、「斯」＝shiと共通する音の響き「-i」となるものを選ぶ。アはyu。イはgo。ウはsa。エはgi。オはkyo。よって、正解はエ。

③ 対句する③の読み「閣を閉ざして只だ聴く朝暮の鼓」と同じ構造にならなければいけない。④の最後の三文字「往来船」は「往来の船」になる。よって、ア、イ、ウのどれかに絞る。四文字目の「望」は、③の「聴く」より動詞の終止形となる。「閣**を**」の送り仮名より、ウ「楼**を**」を選んだ人もいるかもしれないが、「空より望めば」の読みと「只だ聴く」は同じとは言い難い。やはり「空しく望む」と「只だ聴く」が同じ構造と考えられる。したがって「楼**に**」ではあるが、アが正解。
ちなみに、五・六句も対句である。

〔解答〕

①　ウ　　②　エ　　③　ア

第９講　確認問題　解答

〈解説〉

① 「与」の読みの問題で返り点がついていれば、「と」の可能性が高い。文脈上も「と」で訳してみておかしくないので、エが正解。

② まずは**比較**の句法「**不如**」(〜には及ばない)に気づけたかどうか。気づけたら、あとは「妾」の単語の意味。「妾」は女性の一人称「わたし」の意味なので、「わたしに及ばない」、「わたしの方がいい」という解釈ができているイが正解。ちなみに「二三子」は、弟子たちを呼ぶ語で「あなたたち」の意味。

③ 直前の送り仮名が「〜レバ」。よって、「レバ則」の「則」。ウが正解。

〈解答〉

①　エ　　②　イ　　③　ウ

第10講　確認問題　解答

〔解説〕

① 「**令**」は**使役**の助動詞「**しム**」。下を見て、まず動詞を探すと「犯」が動詞（選択肢からも「犯す」と動詞確定）。「令」と「犯」の間にある名詞「子」が使役の対象で「**ヲシテ**」の送り仮名をふる。よって、正解はウ。

② 「夫」は「そもそも」の意味。よって、正解はイ。さらに、「〜猶且〜況」から「抑揚」の句法もわかる。返り点通りの「抑揚」で解釈できているのもイのみ。

③ 「**将**」は**再読文字**で「**将に〜ントす**」と読み、「今にも〜しそう・だろう」の意味。よって、正解はウ。「将」には再読文字以外の読み「はタ」や「もつテ」もあるが、問題になっていれば、まずは再読文字から考えよう。

④ 設問文の「自」は返り点がついており、「**〜より**」と読んで「**起点**」（〜から）の意味。選択肢は返り点が省略されているので、訳して確認すると、選択肢アが「私は衛から魯に帰る」と起点で訳せるので、これが正解。イは「他人を間違いとして自分が正しいと考える」ということなので「みずから」の意味。ウも同様に「あなたは自分でこれを行え。」なのでこちらも「みずから」の意味。

〔解答〕

① ウ　② イ　③ ウ　④ ア

第11講　確認問題　解答

〔解説〕

①「是以」は「ここヲもつテ」と読み、「だから・こういうわけで」の意味。「如是」は「かくノごとシ」と読み、「このようだ」の意味。よって、この二つの解釈がきちんとできているエが正解。

②「於是」は「ここニおいテ」と読み、「そこで」の意味。よって、正解はウ。

③「以」は基本返読文字で「(～ヲ)もつテ」と読む。よって、イとエは削る。「世見疾」の語順で「よにあらわるることはやし」と読むことは不可（この場合の用言「見」が、補語「世」の下にあることになり、間違いだと判断できる）。よって、正解はア。訳してみてもおかしくない。ちなみに「見」は他動詞「疾」（にくむ）の上にあるので、「受身」の助動詞として「る」と読んでいる。

〔解答〕

①　エ　　②　ウ　　③　ア

Ⓒ RECRUIT
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。